



「こちら、  
岩手ナチュラル  
百貨店。」

平成 16 年版

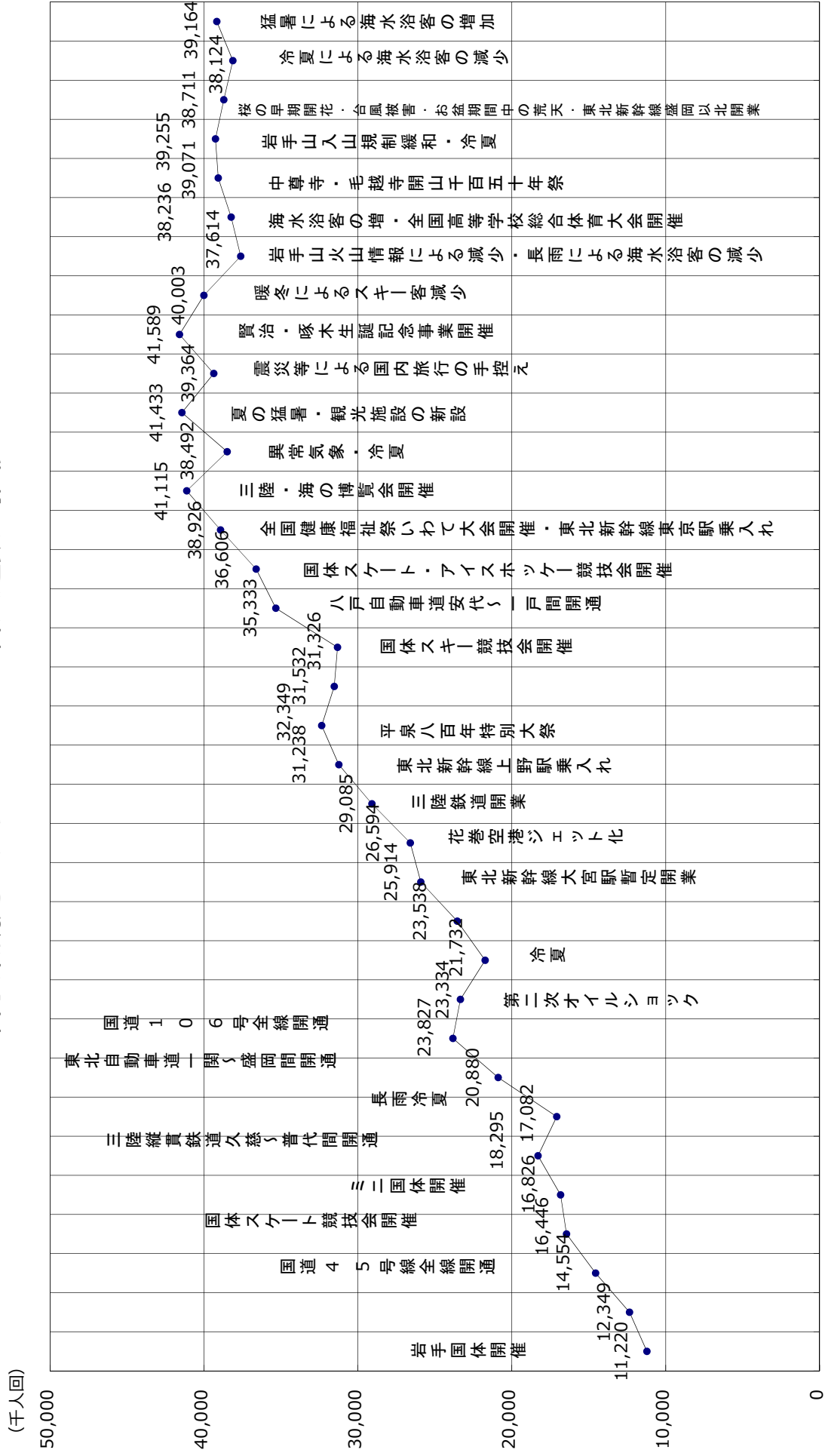
# 岩手県観光統計概要

—— 統計で見る岩手の観光 ——



財団法人岩手県観光協会

# 岩手県観光レクリエーション客入込数の推移



# 目 次

## 利用上の注意

第1 用語の定義	4
第2 岩手県における観光統計調査の体系	5
第3 観光地域の区分	6
第4 観光レクリエーション客入込調査ポイント(観光地)一覧表	7

## 本 編

第1 観光レクリエーション客の入込動向	8
1 概 況	8
2 観光レクリエーション客の入込みの現状	10
(1) 発地別・日帰宿泊別入込状況	10
(2) 四半期別の入込状況	10
(3) 県外客の発地の状況	11
(4) 観光地選択の動機	12
(5) 観光レクリエーションの目的	12
(6) 利用交通機関の状況	13
(7) 県内における平均宿泊泊数	14
(8) 観光消費額	14
3 地域別入込みの状況	16
(1) 観光地域別入込数の割合	16
(2) 市町村別入込数の状況	16
(3) 観光地域別入込数の特徴	18
(4) 入込数の推移	19
(5) 自然公園への入込数の推移	20
(6) 市町村別入込数の増減変化	21
第2 県外修学旅行客の入込動向	22
1 概 況	22
2 入込みの推移	23
第3 外国人観光客の入込動向	24
1 入込みの推移	24
2 入込みの現状	25
第4 スキー客の入込動向	26
1 平成17年シーズンのスキー客入込状況	26
2 スキー客の来訪の動機	26
3 スキー客の観光消費額	27
4 各スキー場の入込みの状況	29

(1) 入込みの状況 .....	29
(2) 入込数の推移 .....	30
第5 有料宿泊施設の動向 .....	32
1 概況 .....	32
2 地域別収容人員の状況 .....	32

## 基礎資料

第1表 観光客入込数及び観光消費額推計表 .....	35
第2表 発地別日帰宿泊別市町村入込推計表 .....	36
第3表 月別市町村入込推計表 .....	37
第4表 観光資源別市町村入込推計表 .....	38
第5表 利用交通機関別宿泊施設別市町村入込推計表 .....	39
第6表 年次別市町村入込推計表 .....	40
第7表 発地別日帰宿泊別観光地入込推計表 .....	41
第8表 月別観光地入込推計表 .....	42
第9表 利用交通機関別宿泊施設別観光地入込推計表 .....	43
第10表 年次別観光地入込推計表 .....	44
第11表 四半期別外国人観光客入込推計表 .....	45
第12表 市町村別外国人観光客入込推計表 .....	46
第13表 県外修学旅行者客発地別入込推計表 .....	47
第14表 県外修学旅行者客市町村別入込推計表 .....	48
第15表 平成17年シーズン・スキー客入込状況 .....	49
第16表 シーズン・スキー客入込数の推移 .....	50
第17表 主な祭り・行催事への入込状況 .....	51
第18表 主な海水浴場の入込状況 .....	57
第19表 市町村別有料宿泊施設一覧表① .....	58
第20表 市町村別有料宿泊施設一覧表② .....	60

# 利用上の注意

## 第1 用語の定義

本書で使用する主な統計用語の定義は、次のとおりである。

○ 「観光レクリエーション客」

居住地が観光地の地域内であるか否か、あるいは、外出の距離の遠近にかかわらず、観光レクリエーションの目的で、観光地や観光施設、観光行催・事を訪問した者をいう。

なお、便宜的にしばしば「観光客」の用語も使用するが、「観光レクリエーション客」と「観光客」とは同義で用いている。

○ 「人回」

観光レクリエーション客の入込数の単位であり、県内 133 箇所の観光地又は 58 市町村をゲートとしてカウントする延べ人員数をいう。

○ 「外国人観光客」

観光地や観光施設、観光行催・事に、観光レクリエーションの目的で訪問した外国人客をいう。

○ 「県外修学旅行客」

観光地や観光施設、観光行催・事に、見学や体験学習などの目的で訪問した、県外に学校が所在する修学旅行客をいう。

○ 「定路線交通機関」

鉄道、定期バス、旅客船、航空機など、定期的に運行している交通機関をいう。

○ 「自然系観光資源」

山岳、高原、湖沼、河川、海岸、自然現象、特殊地形、動物、植物等で、観光的に魅力のあるもの、及び温泉をいう。

○ 「人文系観光資源」

城郭、神社、仏閣、庭園、町並み、旧街道、歴史的建造物、近代的建造物、史跡、名所(文学碑、銅像、墓、生家など)、行・催事、郷土芸能、伝統工芸術、地域風俗、味覚などで、観光的に魅力のあるものをいう。

○ 「展示見学教育施設」

博物館、美術館、水族館、動物園、植物園、産業観光施設、研修センター等をいう。

○ 「野外活動施設」

サイクリングコース、ハイキングコース、ピクニックコース、自然歩道、自然散策路、オリエンテーリング、テニスコート、キャンプ場、フィールドアスレチック場、ゴルフ場、スキー場、スケート場、海水浴場、ヨットハーバー、観光農林業、乗馬場、観光牧場、レジャーランド、公園、プール等をいう。

○ 「休憩展望施設」

ヘルスセンター、展望施設などをいう。

○ 「全旅行費用」

観光レクリエーション客が、観光行動 1 回当たりに、出発から帰宅までに要した全ての旅行関連支出の平均金額をいう。

○ 「1人当たりの観光消費額」

全旅行費用のうち、県内における観光レクリエーションに伴って観光レクリエーション客が消費した旅行関連支出の1人当たりの平均金額をいう。

○「観光消費額」

1人当たりの観光消費額の総和をいう。

## 第2 岩手県における観光統計調査の体系

岩手県における観光統計は、全調査の基本となる「観光レクリエーション客入込調査」をはじめ、次の8種の統計で本県観光の数量的側面を把握している。

基本統計	サンプル統計	その他の統計
・観光レクリエーション客入込調査	・主要観光地における観光レクリエーション客動態調査(夏季動態調査) ・主要スキー場におけるスキー客動態調査(冬季動態調査)	・外国人観光客入込調査 ・県外修学旅行客入込調査 ・シーズン・スキー客入込調査 ・連休(ゴールデンウィーク)期間中の観光客入込調査 ・有料宿泊施設調査

### 1 基本統計

#### 観光レクリエーション客入込調査

県内における観光レクリエーション客の入込実態を把握し、観光施策の基礎資料を得ることを目的に、市町村が調査の主体となって、県内133箇所のポイントを対象に月計で調査しているものである。8種の観光統計のうち、基本統計として観光レクリエーション客入込数を把握するため、次の項目について調査・集計を行っている。

- ① 発地別入込人数
- ② 日帰・宿泊別入込人数
- ③ 利用交通機関別入込人数
- ④ 観光資源施設別入込人数
- ⑤ 宿泊施設別入込人数

### 2 サンプル統計

#### ① 主要観光地における観光レクリエーション客動態調査

観光レクリエーション客の動態の面から基本統計を補完するため、例年7月最終の土曜日又は日曜日に、市町村の職員が直接観光レクリエーション客に面接して調査を行っているものである。平成16年は、県内19箇所の代表的観光地を選択し、2,809人を抽出して実施した。

#### ② 主要スキー場におけるスキー客動態調査

本県スキー場を訪れるスキー客について、その動態の面から基本統計を補完するため、例年1月及び2月の土曜日又は日曜日に、市町村の職員が直接スキー客に面接して調査しているものである。平成17年は、八幡平リゾート、網張温泉、雫石、安比高原、奥中山高原及び夏油高原の6スキー場で、906人を抽出して実施した。

### 3 その他の統計

#### ① 外国人観光客入込調査

本県への外国人観光客の入込状況を把握し、観光施策の基礎資料とするため、市町村を単位として、国(地域)別に月計で調査しているものである。

② 県外修学旅行客入込調査

本県への県外修学旅行客の入込状況を把握し、観光施策の基礎資料とするため、市町村を単位として、学校が所在する都道府県別に月計で調査しているものである。

③ シーズン・スキー客入込調査

冬季の観光振興を図るための基礎資料を得ることを目的に、スキーのシーズンに合わせ、前年の11月からシーズンに該当する年の5月までを期間として、県内全てのスキー場を対象にスキー客の入込数を調査しているものである。

④ 連休(ゴールデンウィーク)期間中の観光客入込調査

多くの観光レクリエーション客の入込みがあるゴールデンウィークの期間を対象として、県内の代表的観光地を選択し、期間中の入込数を日計で調査しているものである。

⑤ 有料宿泊施設調査

毎年1月1日現在で、旅館業法(昭和23年法律第138号)第3条の規定による経営の許可を受けている施設を対象に、施設数、収容人員数等について、各保健所長から報告を受け、集計しているものである。

### 第3 観光地域の区分

○ 盛岡・八幡平地域

盛岡市、雫石町、葛巻町、岩手町、西根町、滝沢村、松尾村、玉山村、紫波町、矢巾町、安代町

○ 北上川流域地域

花巻市、大迫町、石鳥谷町、東和町、北上市、湯田町、沢内村、水沢市、江刺市、金ヶ崎町、前沢町、胆沢町、衣川村、一関市、花泉町、平泉町、大東町、藤沢町、千厩町、東山町、室根村、川崎村

○ 陸中海岸南部・遠野地域

大船渡市、陸前高田市、住田町、遠野市、宮守村、釜石市、大槌町

○ 陸中海岸中部地域

宮古市、田老町、山田町、岩泉町、田野畑村、新里村、川井村

○ 県北・陸中海岸北部地域

久慈市、普代村、種市町、野田村、山形村、大野村、二戸市、軽米町、九戸村、浄法寺町、一戸町

第4 観光レクリエーション客入込調査ポイント(観光地)一覧表

地域	市町村名	調査観光地名	地域	市町村名	調査観光地名
(29) 盛岡・八幡平地域	盛岡市	1.市街 2.つなぎ 3.都南	北上川流域地域	千厩町	1.町内一円
	雫石町	1.小岩井農場 2.長山 3.鶯宿温泉		東山町	1.猊鼻溪 2.幽玄洞
		4.国見 5.滝ノ上 6.玄武		室根村	1.室根山
		7.西根 8.その他		川崎村	1.村内一円
	葛巻町	1.平庭高原	(23) 陸中海岸南部・遠野地域	大船渡市	1.碁石海岸 2.その他の海岸
	岩手町	1.町内一円			3.五葉山 4.五葉温泉 5.三陸
	西根町	1.岩手山 2.いこいの村岩手		陸前高田市	1.高田松原 2.広田半島 3.その他
		3.その他		住田町	1.滝観洞 2.遊林ランド種山
	滝沢村	1.岩手山 2.その他		遠野市	1.遠野盆地 2.早池峰山
	松尾村	1.八幡平藤七地区 2.松川地区		宮守村	1.村内一円
		3.東八幡平地区 4.竜ヶ森地区		釜石市	1.根浜海岸 2.鎌崎 3.荒川海岸
	玉山村	1.姫神山 2.外山、早坂			4.その他の海岸 5.五葉山
	3.啄木遺跡	6.その他			
紫波町	1.町内一円	大槌町		1.浪板海岸 2.吉里吉里海岸	
矢巾町	1.町内一円		3.その他の海岸 4.新山高原		
安代町	1.安比高原 2.その他	(17) 陸中海岸中部地域	宮古市	1.浄土ヶ浜 2.重茂	
花巻市	1.花巻温泉 2.台温泉 3.鉛温泉		田老町	1.三王真崎 2.小堀内	
	4.大沢温泉 5.志戸平温泉		山田町	1.船越 2.その他	
	6.宮沢賢治遺跡 7.高村光太郎遺跡		岩泉町	1.龍泉洞 2.早坂高原	
	8.その他の温泉 9.その他			3.小本茂師海岸	
大迫町	1.早池峰山 2.その他		田野畑村	1.北山崎 2.明戸 3.平井賀	
石鳥谷町	1.町内一円		4.島ノ越 5.榎木沢		
東和町	1.田瀬湖 2.毘沙門 3.東和温泉	新里村	1.村内一円		
	4.その他		川井村	1.早池峰山 2.区界高原	
(43) 北上川流域地域	北上市	1.展勝地 2.夏油温泉 3.その他	(21) 県北・陸中海岸北部	久慈市	1.市街 2.久慈海岸 3.山根
	湯田町	1.湯本温泉 2.湯川温泉		普代村	1.黒崎 2.その他
		3.薬師温泉 4.巢郷温泉 5.その他		種市町	1.江戸ヶ浜 2.大沢・大谷
	沢内村	1.村内一円		野田村	1.村内一円
	水沢市	1.水沢市内		山形村	1.平庭高原 2.その他
	江刺市	1.種山高原 2.その他		大野村	1.村内一円
	金ヶ崎町	1.町内一円		二戸市	1.金田一温泉 2.折爪岳 3.馬仙峡
	前沢町	1.町内一円			4.その他
	胆沢町	1.焼石		軽米町	1.町内一円
	衣川村	1.村内一円		九戸村	1.村内一円
	一関市	1.須川 2.巖美溪		浄法寺町	1.町内一円
	花泉町	1.花と泉の公園	一戸町	1.西岳、高森地区 2.馬仙峡	
	平泉町	1.平泉		3.その他	
	大東町	1.室根山 2.その他	以上58市町村133観光地		
	藤沢町	1.町内一円			

# 本 編

## 第1 観光レクリエーション客の入込動向

### 1 概 況

本県における平成16年の観光レクリエーション客の入込数は、前年を2.7パーセント上回る39,163,617人回であった。

時期的に前年と比較すると、1～3月は、暖冬によるスキー客の減少等から、1月の入込数が減少した。新緑シーズンは、4月、5月が比較的、好天に恵まれたことから入込数が増加している。7月、8月は、高温が続いたことから海水浴客を中心に入込数が増加した。秋の紅葉シーズンは、記録的な台風の接近・通過など荒天により9月、11月の入込数が減少した。

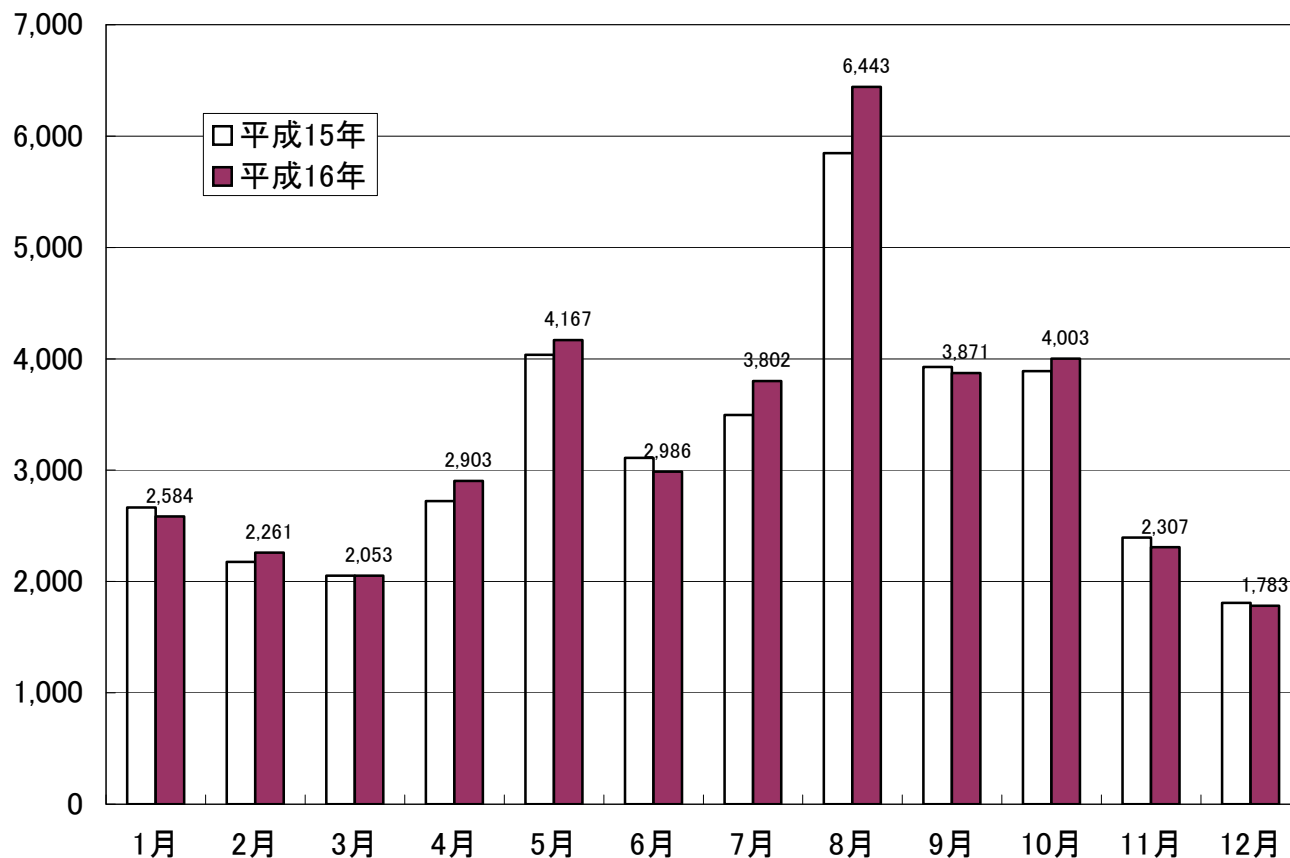
発地別では、県内客が3.0パーセント、県外客が2.3パーセントそれぞれ増加した。また、日帰宿泊別では、日帰客は3.8パーセント増加したが、宿泊客は逆に3.7パーセント減少した。(第1-2図、第1-3図)

観光資源別では、人文系観光資源(町並、行催事)、展示見学教育施設、野外活動施設(海水浴客)、休憩展望施設が増加し、自然系観光資源、野外活動施設(スキー客)などが減少した。(第1-4図)

地域別では、陸中海岸南部・遠野地域が対前年比10.4パーセント、陸中海岸中部地域が0.8パーセント、県北・陸中海岸北部地域が22.9パーセント増加した一方で、盛岡・八幡平地域が1.6パーセント、北上川流域地域が0.3パーセント減少した。

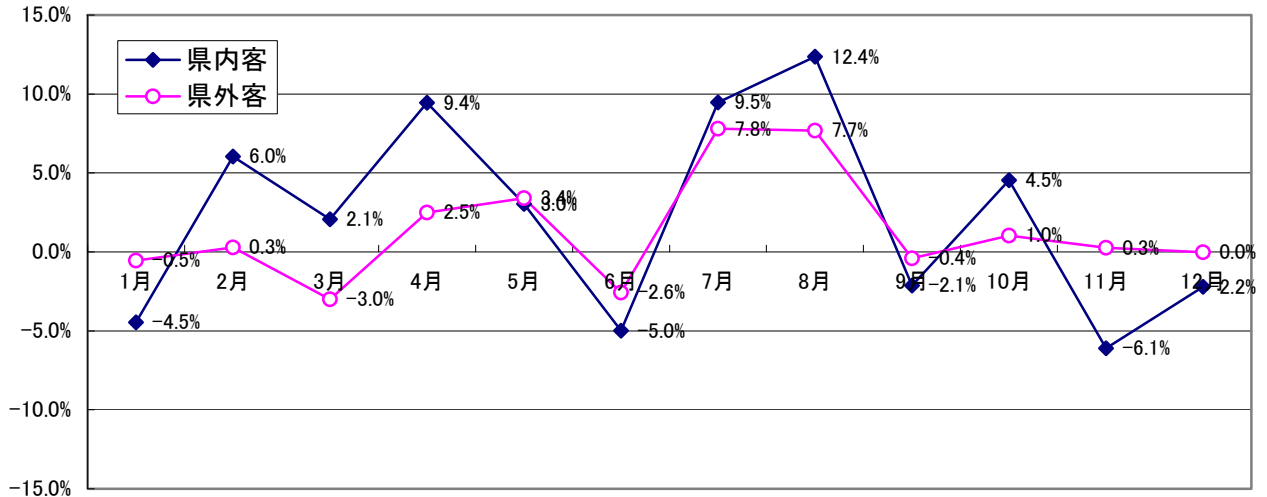
第1-1図 月別入込数の前年対比

(千人回)

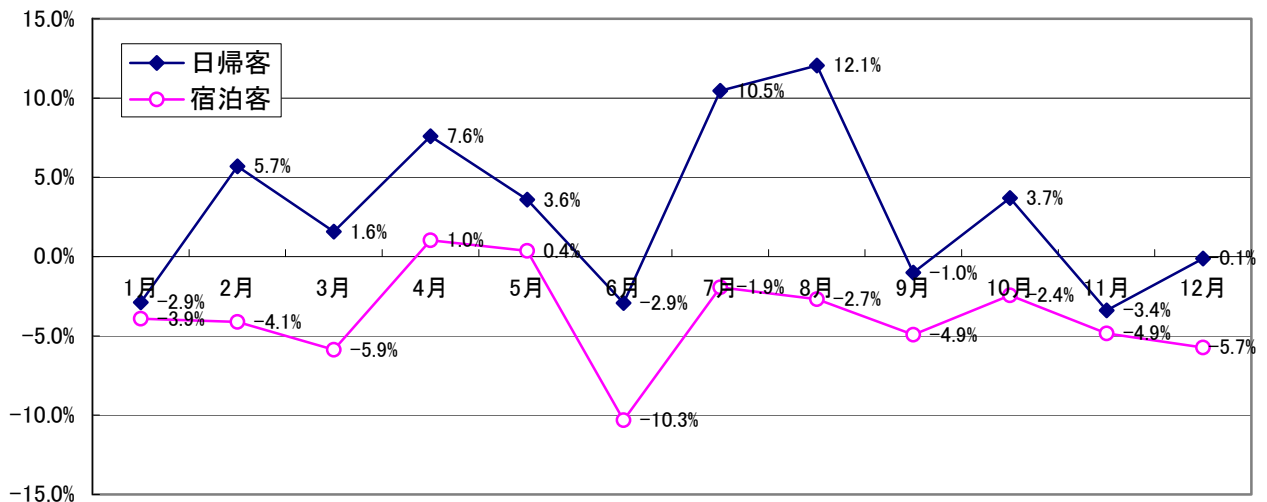


# 本 編

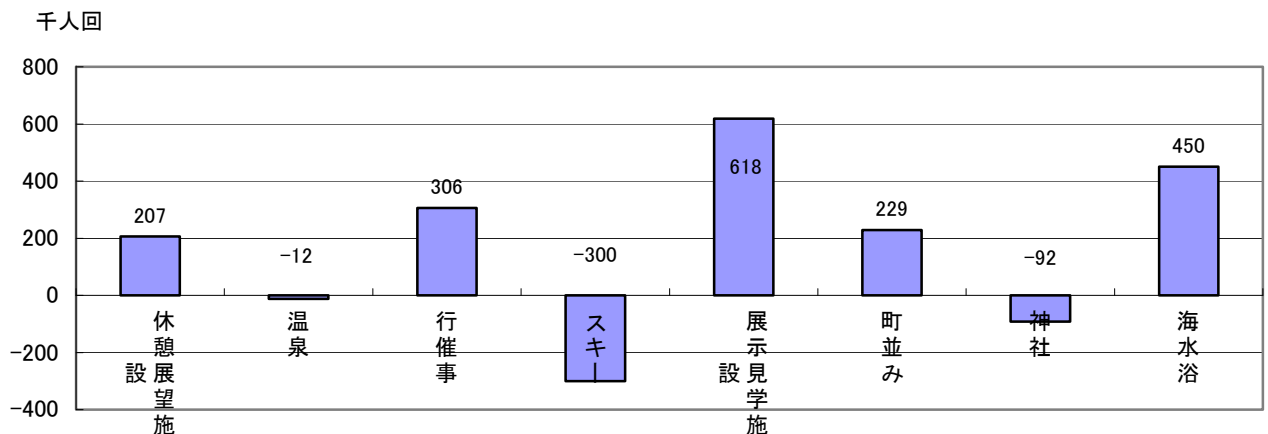
第1-2図 発地別入込数前年比の推移



第1-3図 日帰宿泊別入込数前年比の推移



第1-4図 観光資源別の入込増減数(対前年比)



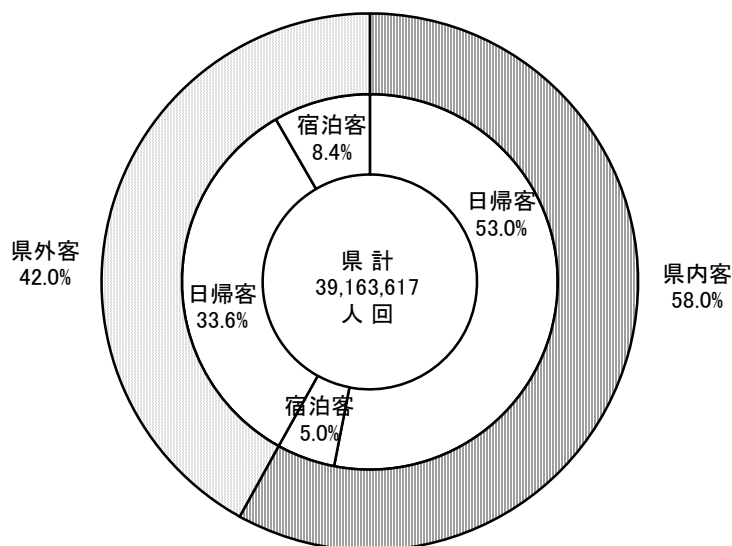
## 2 観光レクリエーション客の入込みの現状

### (1) 発地別・日帰宿泊別入込状況

平成 16 年における入込数の発地別内訳は、県内客 58.0%、県外客 42.0%であり、県内客が県外客を上回っている。昨年と比較して県外客の占める割合が 0.2 ポイント減少している。

日帰宿泊別では、日帰客 86.6%、宿泊客 13.4%であり、日帰客が 8 割以上を占めており、昨年と比較して日帰客の占める割合が 1.0 ポイント増加している。(第 1-5 図)

第1-5図 発地別・日帰宿泊別入込状況

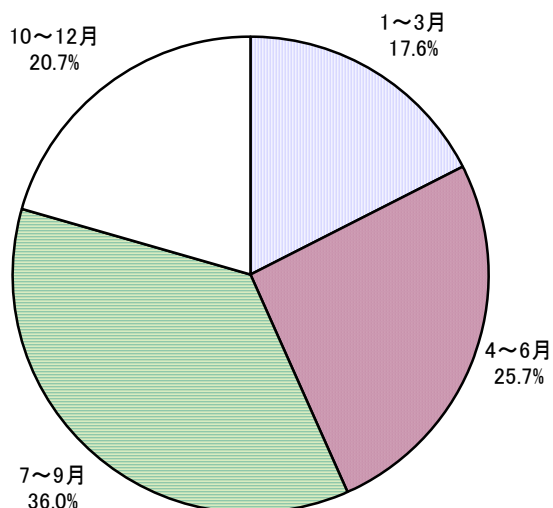


### (2) 四半期別の入込状況

四半期別では、7月から9月が 36.0%の入込みがあり、「夏季型」の現状にある。その他、4月から6月に 25.7%、10月から12月に 20.7%、1月から3月に 17.6%の入込み割合となっている。

7月から9月の入込みが、昨年と比較して 1.2 ポイント増加している。(第 1-6 図)

第1-6図 四半期別入込数の割合



### (3) 県外客の発地の状況

本県の入込数に占める県外客の割合は、42.0%であるが、その発地の状況を都道府県別にみると東北各県のほか、首都圏からの入込みが中心となっている。(第1-1表)

第1-1表 県外客の発地別状況(N=1,920)

単位:人、%

	都道府県	実数	構成比		都道府県	実数	構成比
北海道・東北	北海道	50	2.6%	近畿	滋賀県	10	0.5%
	青森県	160	8.3%		京都府	16	0.8%
	宮城県	332	17.3%		大阪府	24	1.3%
	秋田県	146	7.6%		兵庫県	20	1.0%
	山形県	55	2.9%		奈良県	10	0.5%
	福島県	115	6.0%		和歌山県	6	0.3%
関東	茨城県	54	2.8%	中国	鳥取県	1	0.1%
	栃木県	50	2.6%		島根県	1	0.1%
	群馬県	19	1.0%		岡山県	2	0.1%
	埼玉県	146	7.6%		広島県	6	0.3%
	千葉県	100	5.2%		山口県	0	0.0%
	東京都	259	13.5%	四国	徳島県	4	0.2%
	神奈川県	177	9.2%		香川県	0	0.0%
北陸・甲信越	新潟県	18	0.9%	九州・沖縄	愛媛県	8	0.4%
	富山県	3	0.1%		高知県	0	0.0%
	石川県	4	0.2%	福岡県	9	0.4%	
	福井県	2	0.1%	佐賀県	0	0.0%	
	山梨県	7	0.4%	長崎県	1	0.1%	
	長野県	17	0.9%	熊本県	2	0.1%	
東海	岐阜県	26	1.3%	大分県	1	0.1%	
	静岡県	29	1.5%	宮崎県	1	0.1%	
	愛知県	24	1.3%	鹿児島県	0	0.0%	
	三重県	5	0.3%	沖縄県	0	0.0%	

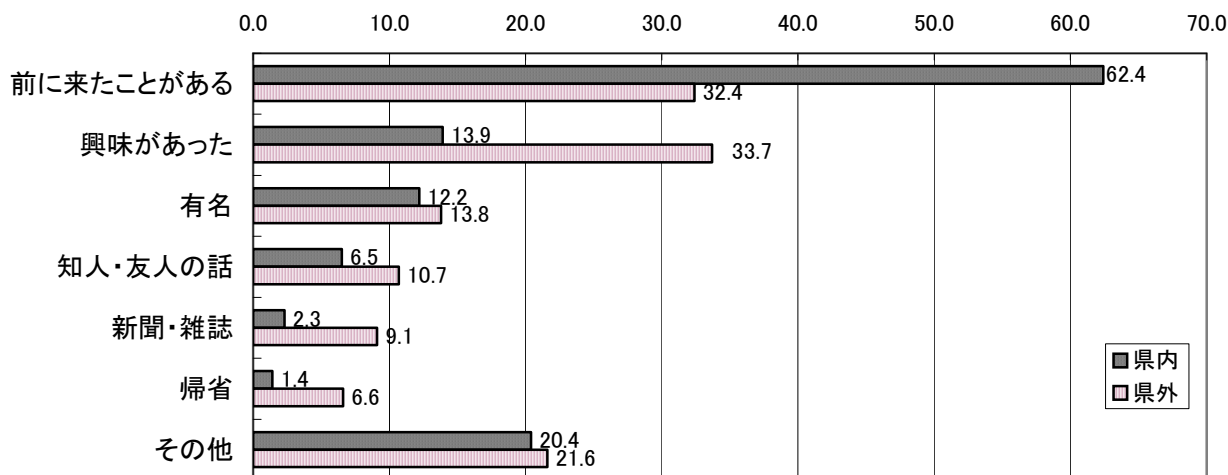
観光動態調査結果(平成16年7月、8月実施 県観光協会取りまとめ)

#### (4) 観光地選択の動機

観光地選択の動機を発地別にみると、県内客では「前に来たことがあるから（62.4%）」とする者が多く、次に、「興味があった（13.9%）」、「有名（12.2%）」の順となっている。

一方、県外客では「興味があった（33.7%）」とするものが多く、次に「前に来たことがある（32.4%）」「有名（13.8%）」の順となっている。（第 1-7 図）

第1-7図 観光レクリエーションの目的(N=2,795 複数回答可)



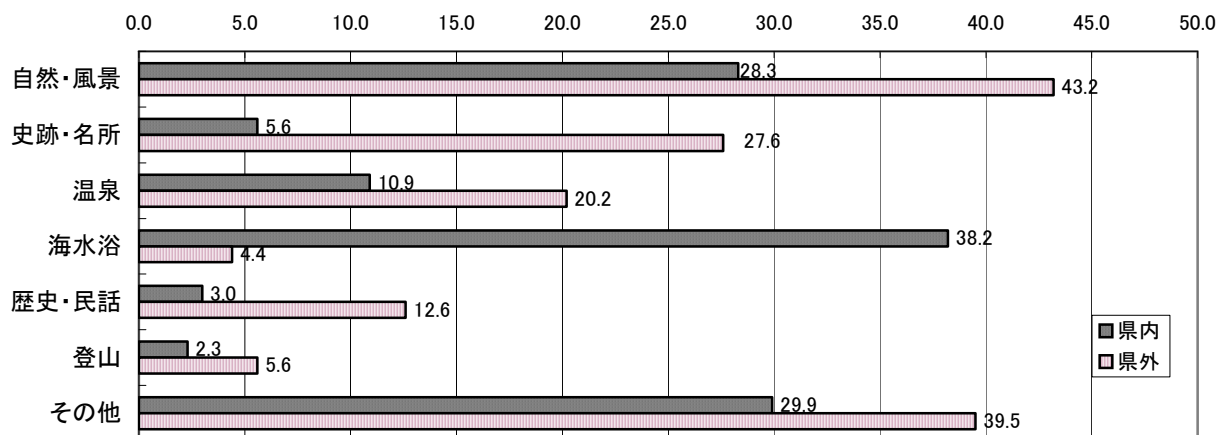
注：前回までは、全回答項目に占める個々の回答項目の割合を表していたが、今回は、全回答者が個々の選択項目に回答した割合とした。前回の方法で算出する場合は、県内には 100/119.1 を、県外には 100/127.9 を乗ずること。

#### (5) 観光レクリエーションの目的

観光レクリエーションの目的を発地別にみると、県内客では、「海水浴（38.2%）」、「自然・風景（28.3%）」、「温泉（10.9%）」の順となっている。

一方、県外客では、「自然・風景（43.2%）」、「史跡・名所（27.5%）」、「温泉（20.2%）」、「歴史・民話（12.6%）」の順となっている。（第 1-8 図）

第1-8図 観光地選択の動機(N=2,795 複数回答可)

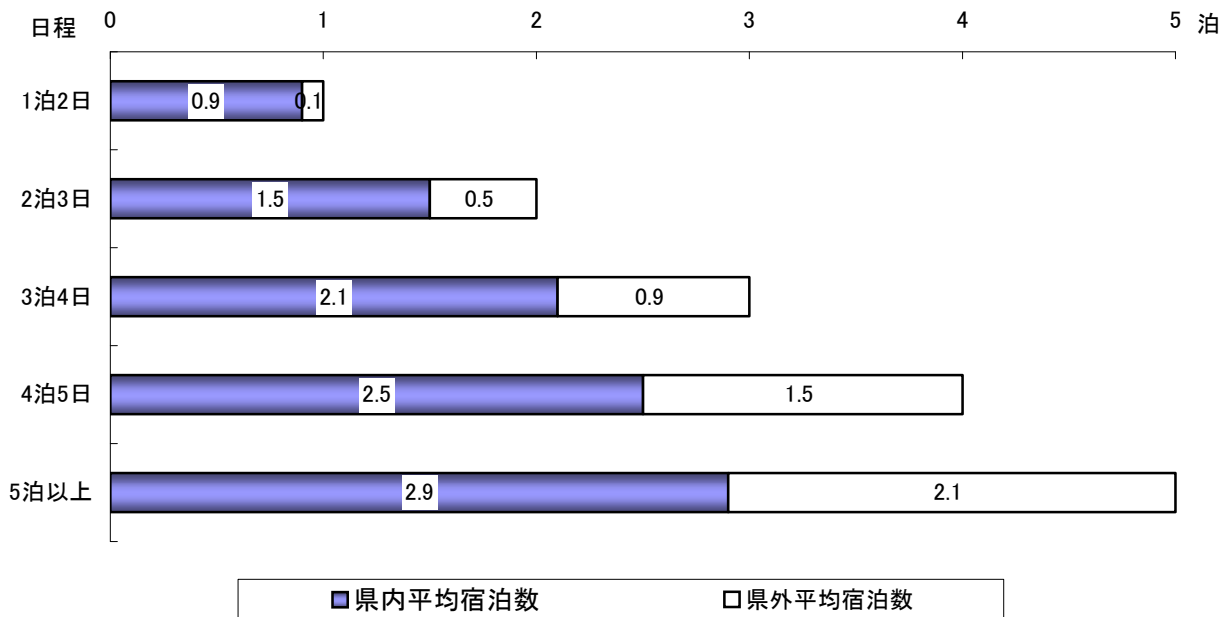


注：上図に同じ。前回の方法で算出する場合は、県内には 100/118.2 を、県外には 100/153.1 を乗ずること。

### (7) 県内における平均宿泊日数

全旅行日程のうち、県内での宿泊日数を日程別にみると、1泊2日から2泊3日は概ね1泊、3泊4日から4泊5日は2泊、5泊以上では3泊となっている。(第1-10図)

第1-10図 県内における平均宿泊数



### (8) 観光消費額

平成16年7月、8月に実施した観光動態調査において、観光レクリエーション客が、県内で消費する観光消費額の状況は、次のとおりとなっている。(第1-3表、第1-4表)

第1-3表 発地別観光客の1人1日当たり観光消費額

単位：円

	宿泊費及び 宿泊に伴う 飲食代	その他の 飲食費	お土産代	その他	計
県内客	1,284	1,381	752	571	3,988
県外客	4,811	1,680	1,534	869	8,894
平均	2,766	1,507	1,081	696	6,050

注：夏季動態調査（平成16年7月、8月実施において回答があった消費金額の総計を回答者の延べ県内滞在日数で除したもの。

第1-4表 主な観光地における1人1日当たり観光消費額

単位:円

観光地		宿泊及び宿 泊に伴う飲 食	その他の飲 食代	お土産代	その他	計
盛岡市街	日帰客	0	1,431	6,207	180	7,818
	宿泊客	4,671	1,913	1,765	410	8,759
	平均	4,244	1,868	2,172	389	8,673
小岩井農場	日帰客	0	1,077	1,513	686	3,276
	宿泊客	6,057	1,909	1,786	673	10,425
	平均	5,476	1,829	1,760	674	9,739
八幡平	日帰客	0	1,931	1,375	36	3,342
	宿泊客	6,261	2,059	948	235	9,503
	平均	4,768	2,028	1,050	187	8,033
宮沢賢治記念館	日帰客	0	2,093	2,849	1,190	6,132
	宿泊客	6,193	1,598	1,528	670	9,989
	平均	5,572	1,648	1,661	722	9,603
花巻温泉	日帰客	0	0	5,000	7,500	12,500
	宿泊客	7,535	1,333	1,774	372	11,014
	平均	7,466	1,320	1,803	437	11,026
沢内銀河高原	日帰客	0	1,273	1,745	372	3,390
	宿泊客	2,696	3,278	1,022	500	7,496
	平均	1,333	2,265	1,387	435	5,420
えさし藤原の郷	日帰客	0	2,333	833	267	3,433
	宿泊客	2,449	1,699	765	541	5,454
	平均	2,124	1,783	774	504	5,185
須川温泉	日帰客	0	605	809	719	2,133
	宿泊客	8,602	725	914	629	10,870
	平均	6,278	693	886	653	8,510
平泉	日帰客	0	1,504	1,963	1,233	4,700
	宿泊客	5,710	1,440	1,469	1,326	9,945
	平均	4,976	1,448	1,533	1,314	9,271
狛鼻溪	日帰客	0	1,306	940	1,830	4,076
	宿泊客	4,919	2,282	871	427	8,499
	平均	3,675	2,035	889	782	7,381
碓石海岸	日帰客	0	1,585	806	1,776	4,167
	宿泊客	3,504	1,682	1,300	3,961	10,447
	平均	2,595	1,657	1,171	3,394	8,817
高田松原	日帰客	0	2,232	409	539	3,180
	宿泊客	2,195	1,509	732	121	4,557
	平均	541	2,054	489	435	3,519
遠野盆地	日帰客	0	1,463	1,726	1,000	4,189
	宿泊客	4,950	1,466	1,795	739	8,950
	平均	4,499	1,466	1,789	763	8,517
釜石市内	日帰客	0	2,880	2,250	1,000	6,130
	宿泊客	6,770	1,901	2,764	1,193	12,628
	平均	6,374	1,958	2,734	1,182	12,248
浄土ヶ浜	日帰客	0	1,516	713	197	2,426
	宿泊客	3,826	1,777	1,141	312	7,056
	平均	2,940	1,716	1,042	285	5,983
龍泉洞	日帰客	0	633	1,033	433	2,099
	宿泊客	3,090	1,112	964	557	5,723
	平均	2,682	1,048	974	541	5,245
北山崎	日帰客	0	2,143	2,286	286	4,715
	宿泊客	6,103	1,494	1,218	496	9,311
	平均	5,935	1,512	1,247	490	9,184
久慈市街	日帰客	0	1,128	1,095	1,567	3,790
	宿泊客	3,097	1,343	1,033	467	5,940
	平均	2,342	1,291	1,048	735	5,416
金田一温泉	日帰客	0	125	60	432	617
	宿泊客	4,769	1,138	1,362	212	7,481
	平均	1,097	358	359	381	2,195

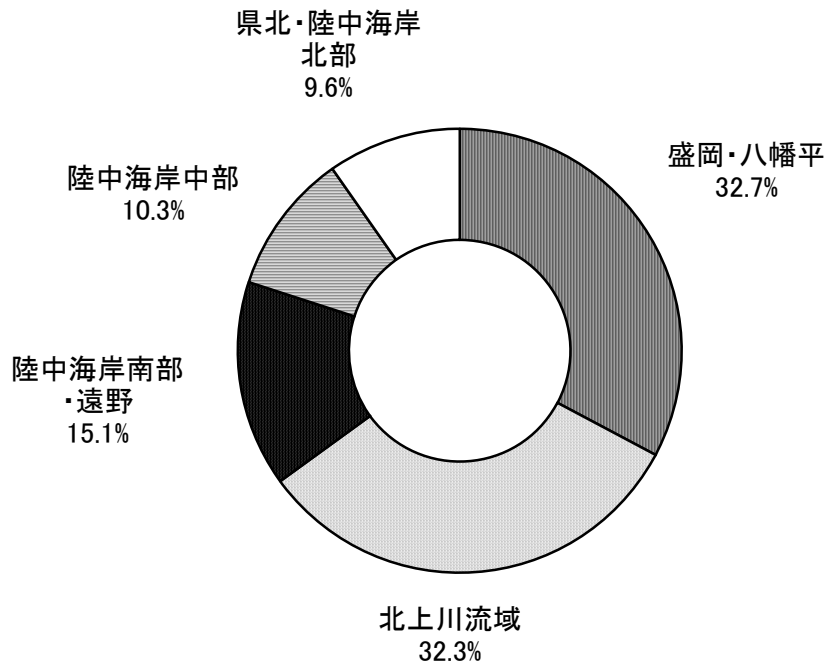
注:夏季動態調査(平成16年7月、8月実施)において回答があった消費金額の総計を回答者の延べ滞在日数で除したものの。

### 3 地域別入込みの状況

#### (1) 観光地域別入込数の割合

入込数の観光地域別の割合は、盛岡・八幡平地域 32.7%、北上川流域 32.3%、陸中海岸南部・遠野地域 15.1%、陸中海岸中部地域 10.3%、県北・陸中海岸北部地域 9.6%であり、65%が内陸部に集中している。(第 1-11 図)

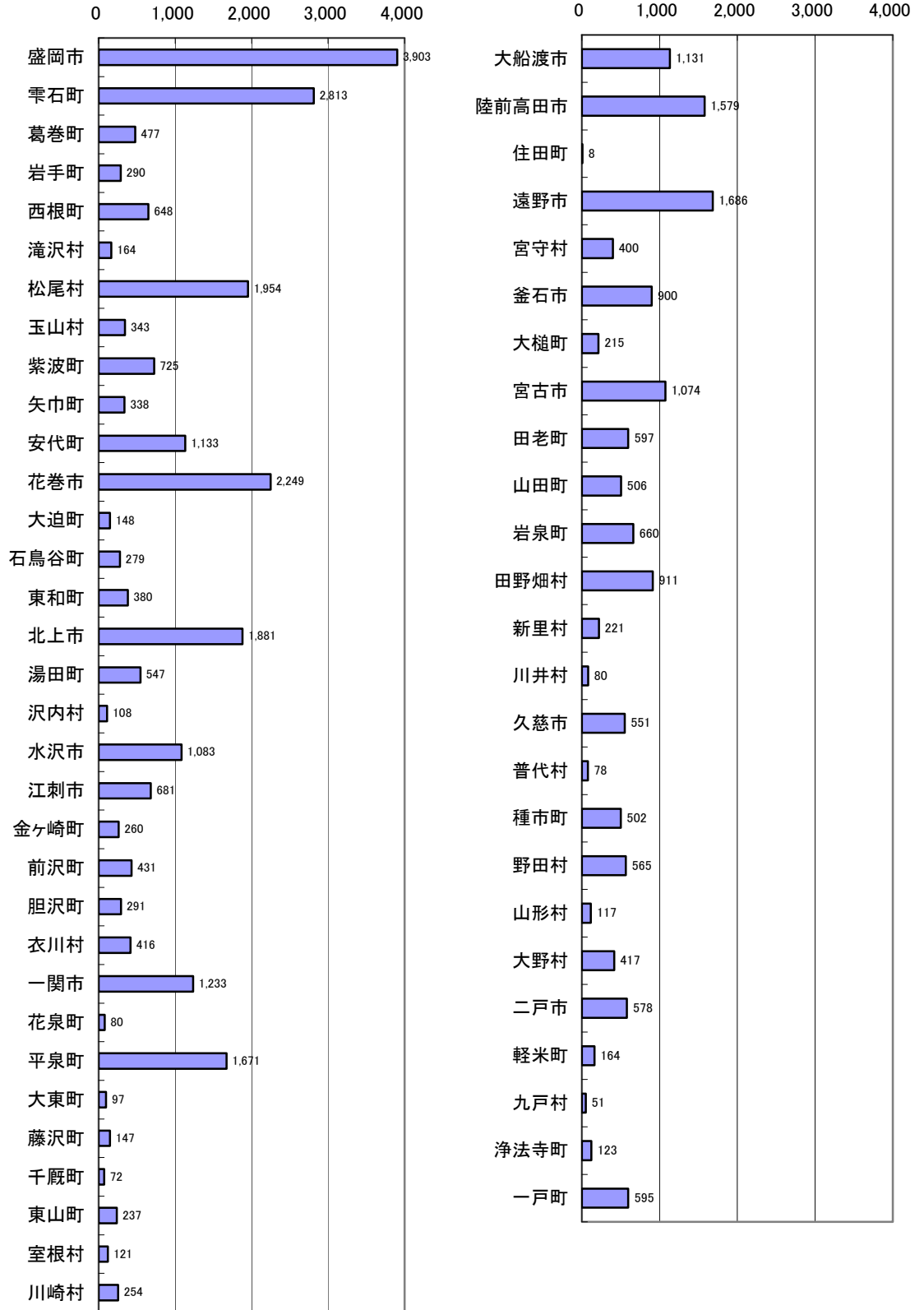
第1-11図 観光地域別入込数の割合



#### (2) 市町村別入込数の状況

市町村別に入込数の状況を見ると、入込数が1百万人回以上の市町村は、盛岡市、雫石町、松尾村、安代町（以上、「盛岡・八幡平地域」）、花巻市、北上市、水沢市、一関市、平泉町（以上、「北上川流域地域」）、大船渡市、陸前高田市、遠野市（以上、「陸中海岸南部・遠野地域」）、宮古市（「陸中海岸中部地域」）となっている。(第 1-12 図)

第 1-12 図 市町村別入込数の状況(単位:千人回)

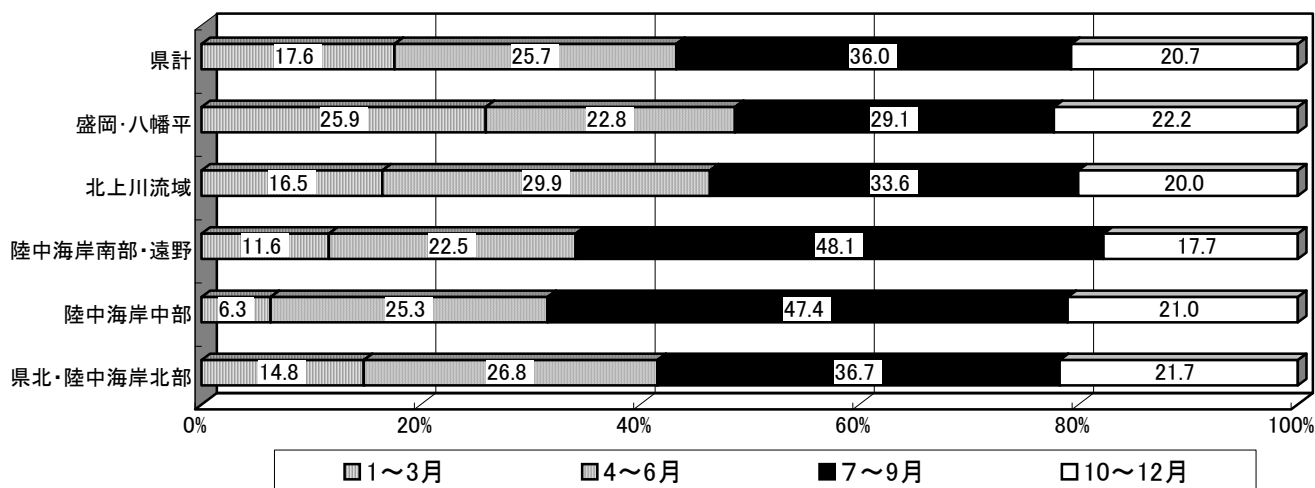


### (3) 観光地域別入込数の特徴

観光地域別に四半期ごとの入込割合をみると、盛岡・八幡平地域は、通年で均衡のとれた入込形態を示している。

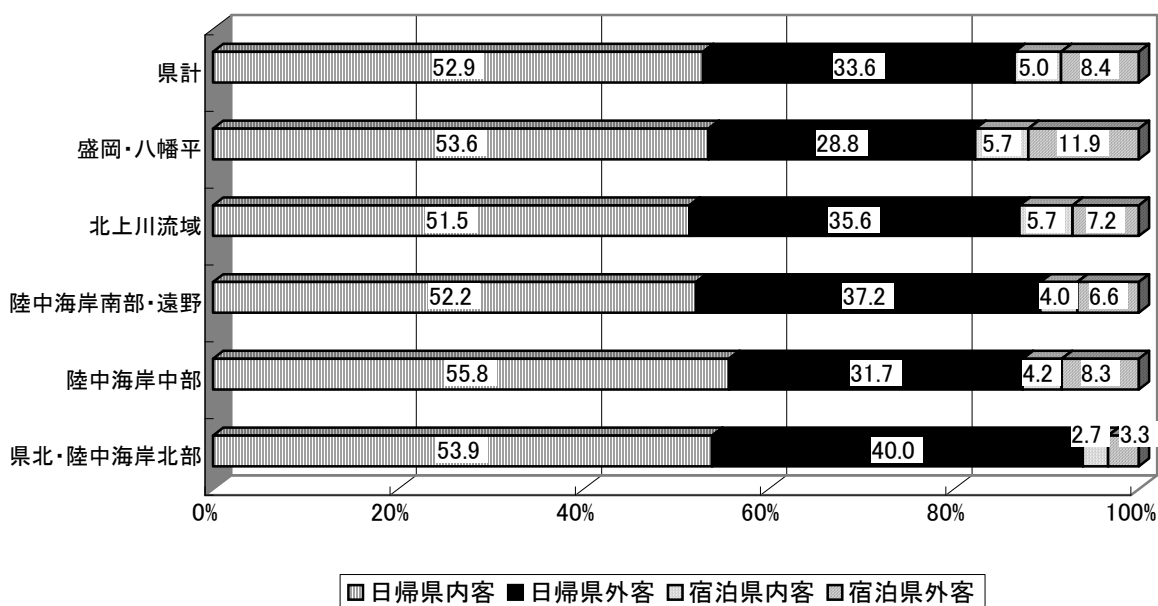
一方、陸中海岸南部・遠野地域と陸中海岸中部地域は、7月から9月の割合が47～48%程度となっており、典型的な「夏季型」となっている。(第1-13図)

第1-13図 観光地別四半期別入込数の割合



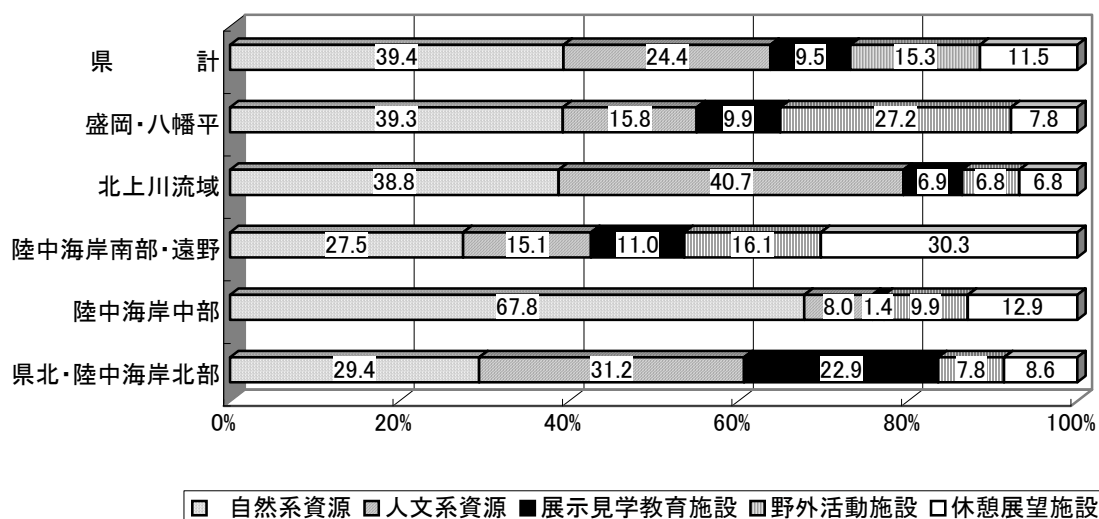
発地別日帰宿泊別にみると、いずれの地域も日帰県内客が約半数程度を占めており、また、県内客、県外客とも宿泊客の割合が少くなっている。(第1-14図)

第1-14図 観光地域別日帰宿泊別入込数の割合



観光資源別にみると、盛岡・八幡平地域は、八幡平国立公園などの自然系資源やスキー場などの野外活動施設の割合が高く、北上川流域地域は、神社仏閣など人文系観光資源の割合が高くなっている。陸中海岸南部・遠野地域、陸中海岸中部地域及び県北・陸中海岸北部地域は、陸中海岸国立公園をはじめとする自然系資源の割合が高くなっているほか、陸中海岸南部・遠野地域では休憩展望施設、県北・陸中海岸北部では人文系資源の割合が高くなっている。（第 1-15 図）

第1-15図 観光資源別入込状況



#### (4) 入込数の推移

昭和 63 年以降の観光地域別入込数の推移をみると、各地域との平成 2 年頃までは順調な伸びをみせていたが、その後、三陸海の博覧会開催（平成 4 年）、冷夏（平成 5 年）の影響などにより陸中海岸地域の増減の波が大きくなっている。

平成 8 年は、宮沢賢治生誕祭事業により北上川地域流域が増加している。

平成 9 年は、宮沢賢治生誕祭事業の反動と雪不足によるスキー客の減少により、盛岡・八幡平地域と北上川流域地域が減少している。

平成 10 年は、岩手山の火山情報、天候不順によるスキー客・海水浴客・秋の行楽客の減少により全体的に減少している。

平成 11 年は、夏の好天により海水浴客が多かったため、陸中海岸地域が増加した。

平成 12 年は、道の駅の整備により陸中海岸南部・遠野地域が増加している。

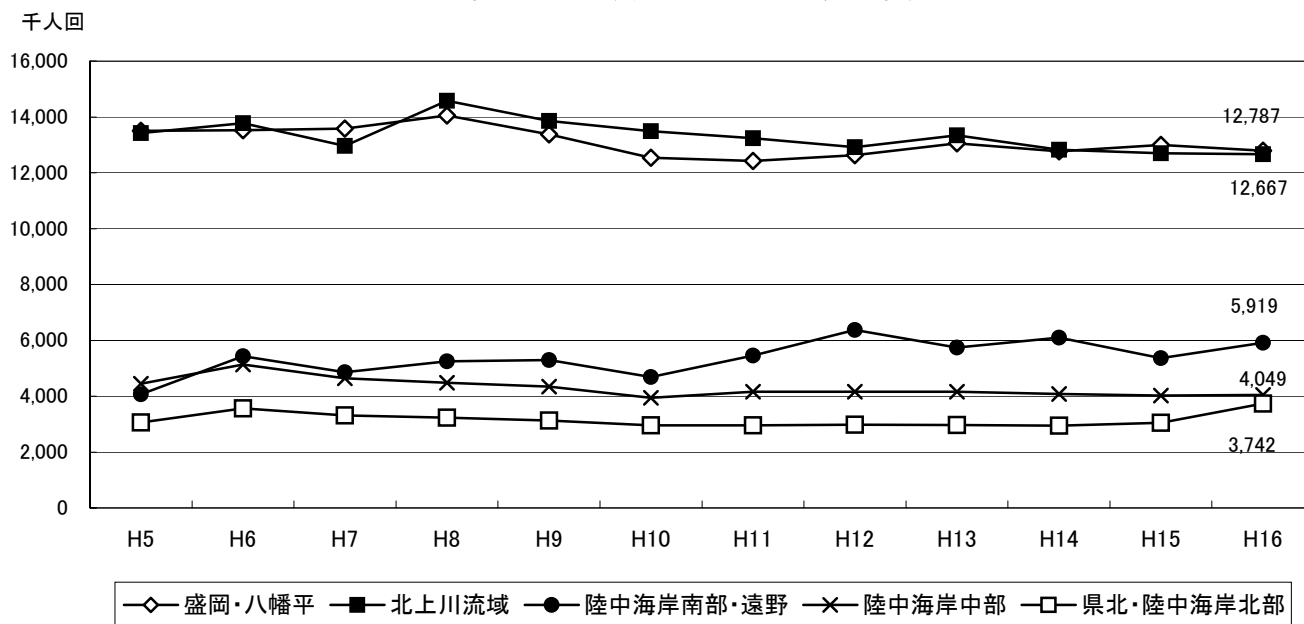
平成 13 年は、岩手山の入山規制緩和、ゴールデンウィーク期間が好天に恵まれ増加したが、冷夏により陸中海岸南部・遠野地域が減少している。

平成 14 年は、桜の開花時期がゴールデンウィークより大幅に早まったことや、7 月、8 月の台風及び荒天により陸中海岸南部・遠野地域以外が減少している。

平成 15 年は、冷夏による海水浴客の減少やスキー客の減少などにより、全体的に入込数が減少している。

平成 16 年は、夏の猛暑のため、海水浴客などにより陸中海岸地域が増加している一方で、盛岡・八幡平地域や北上川流域地域は、猛暑に加え記録的な台風接近・通過などの荒天の影響により、減少している。（第 1-16 図）

第1-16図 観光地域別入込数の推移

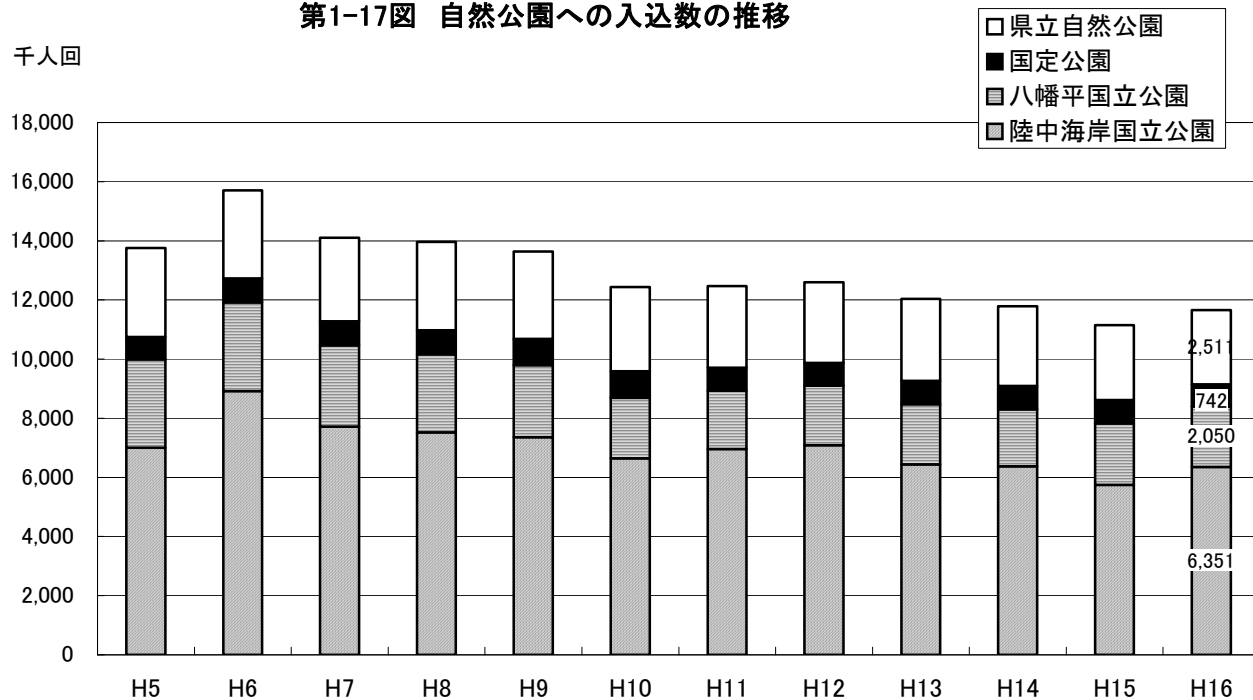


(5) 自然公園への入込数の推移

自然公園への入込数をみると、平成6年以降減少傾向にある。

陸中海岸国立公園は、景勝地に恵まれているが気象状況の影響を受けやすく、変化の振幅も大きくなっている。(第1-17図)

第1-17図 自然公園への入込数の推移

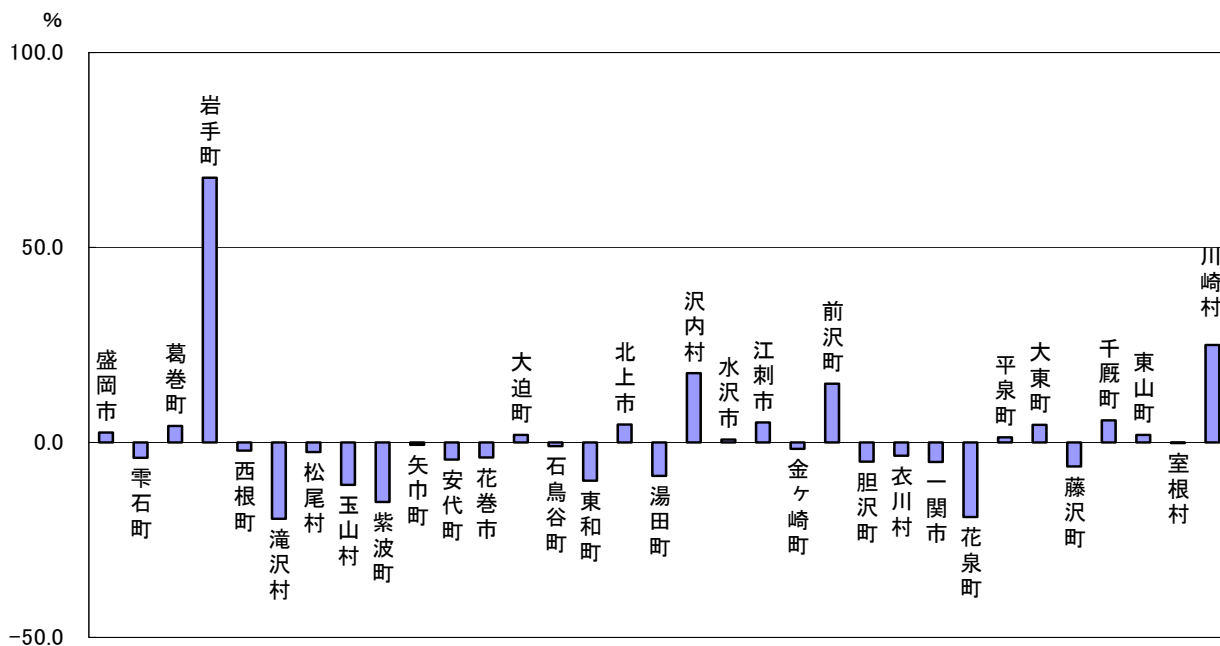


(6) 市町村別入込数の増減変化

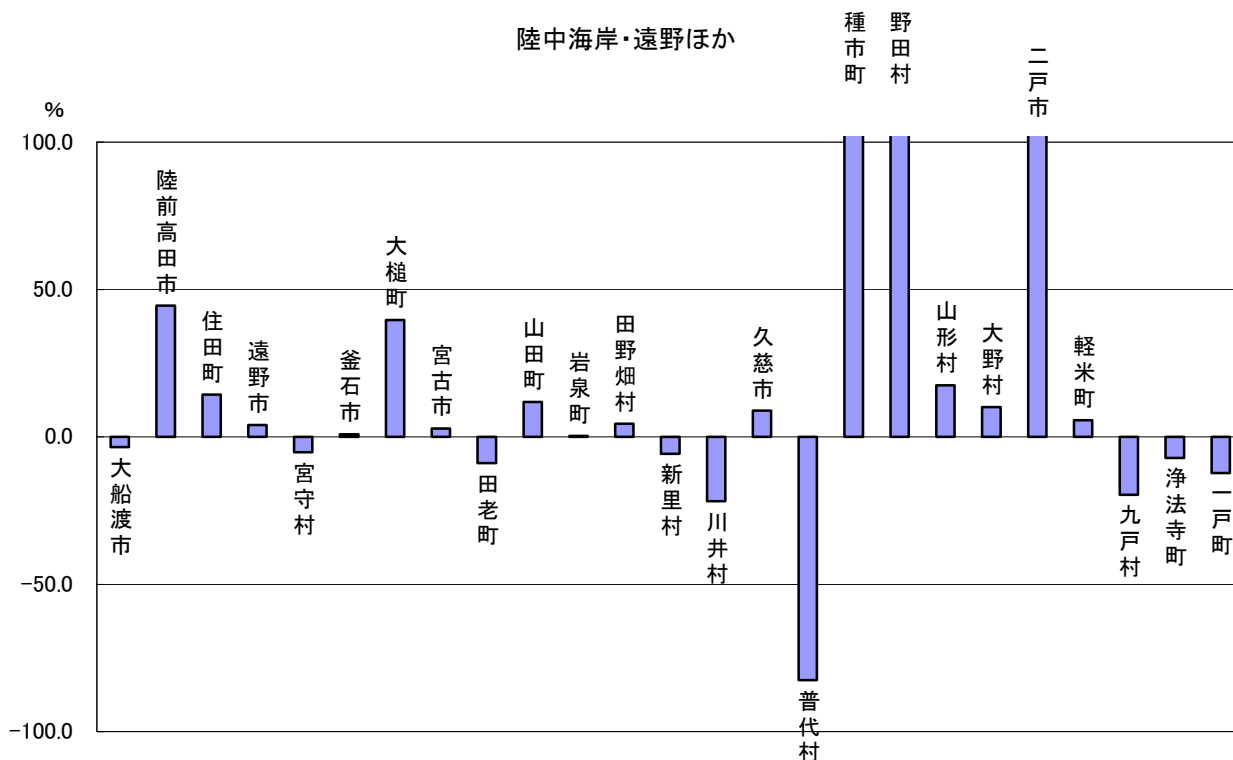
平成 15 年から 16 年にかけての増減変化を市町村別にみると、県北・陸中海岸北部地域の市町村の入込数が増加しているが、これは、新幹線の八戸延伸などに伴い観光物産施設や道の駅等への入込数が増加したことなどによるものである。(第 1-18 図)

第 1-18 図 市町村別入込数の増減

盛岡・八幡平地域 北上川流域地域



陸中海岸・遠野ほか



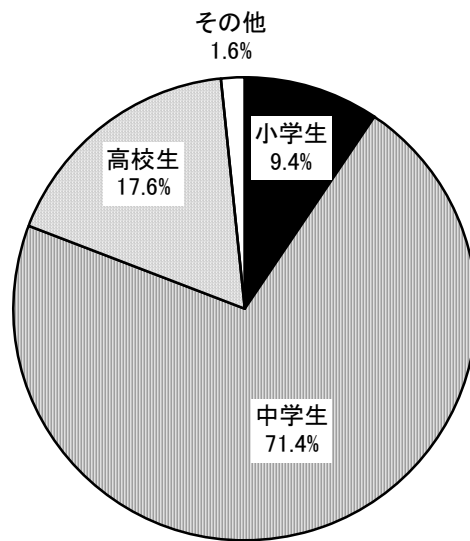
## 第2 県外修学旅行客の入込動向

### 1 概況

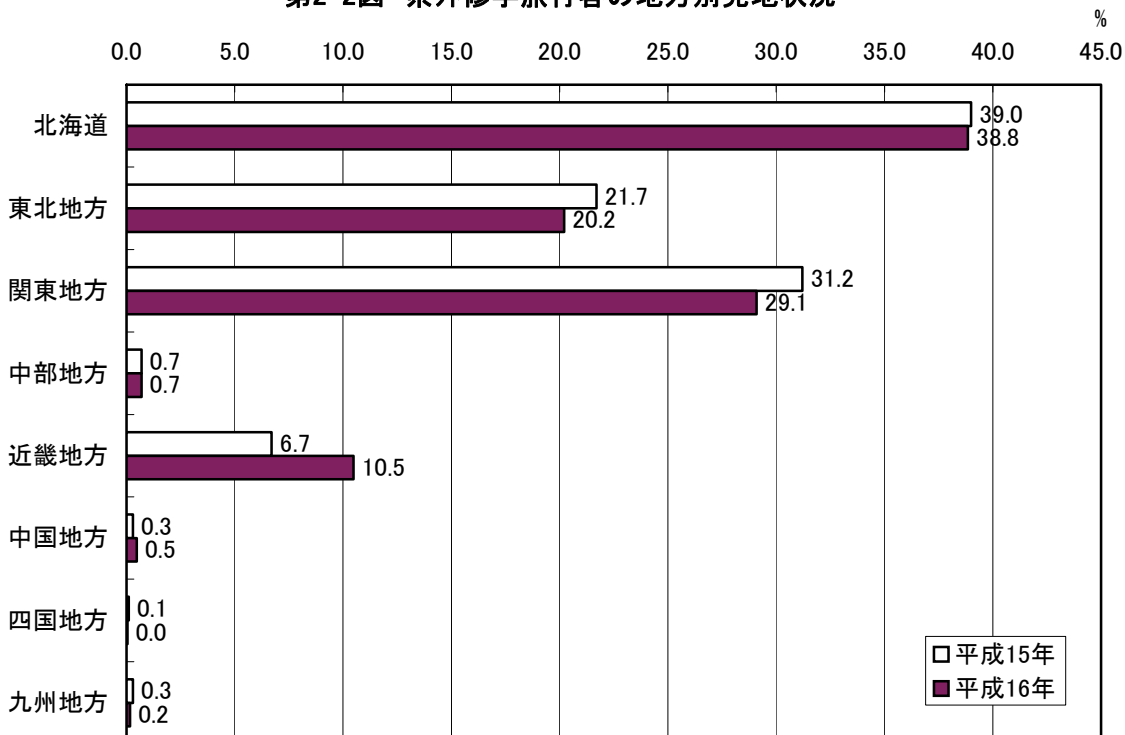
本県を訪れる県外修学旅行客の内訳は、中学生が多く全体の71.4%を占めており、次いで高校生17.6%、小学生9.4%、その他1.6%となっている。(第2-1図)

発地別をみると、北海道が最も多く全体の38.8%を占めているほか、次いで関東地方、東北地方、近畿地方の順となっている。(第2-2図)

第2-1図 県外修学旅行客の入込割合



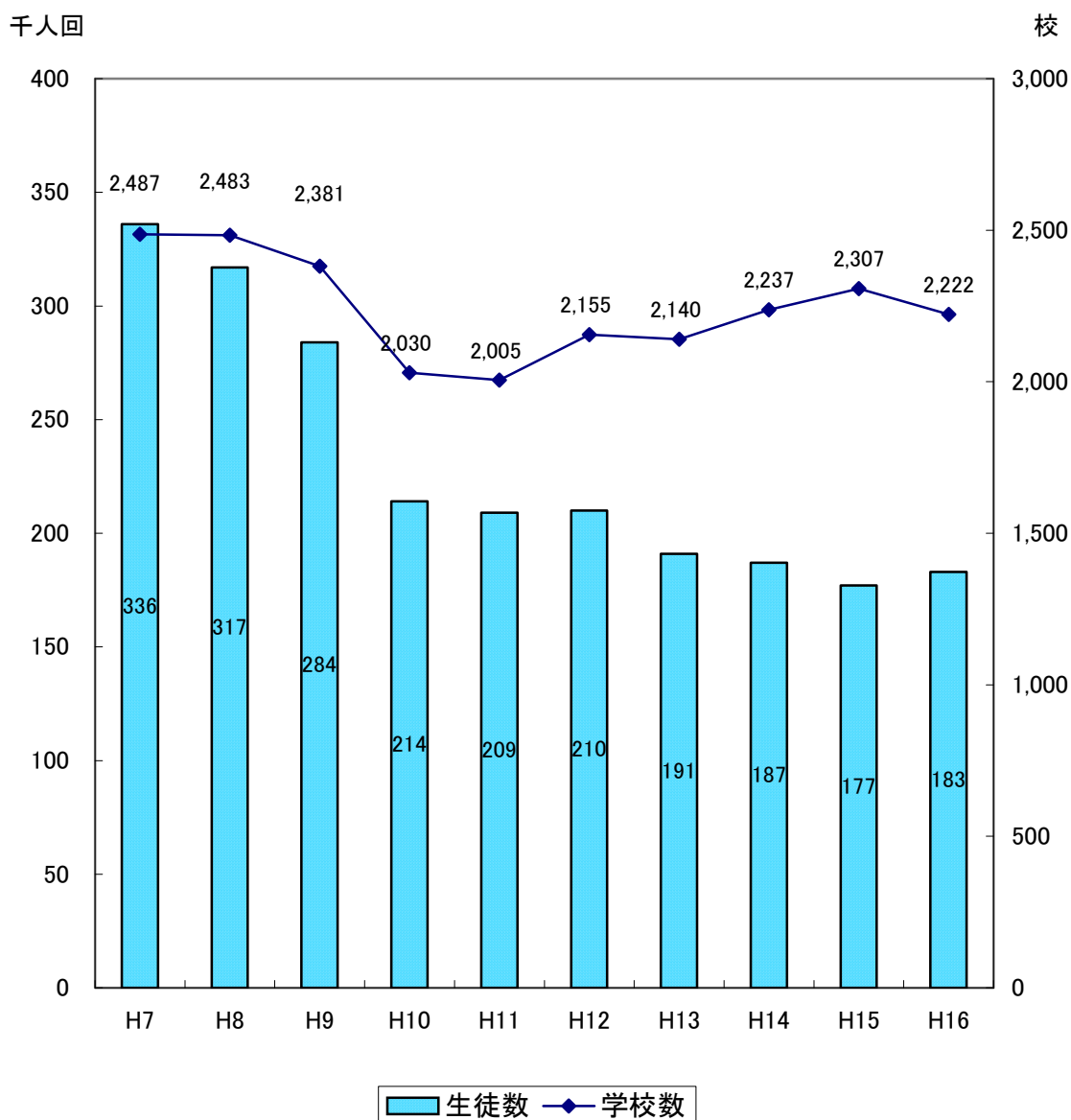
第2-2図 県外修学旅行客の地方別発地状況



## 2 入込みの推移

平成 16 年に本県を訪れた県外修学旅行客は、学校数が延べ 2,222 校、生徒数が 183,024 人回となり、平成 15 年と比較すると、生徒数が増加し、学校数が減少している。(第 2-3 図)

第2-3図 県外修学旅行客入込数の推移



### 第3 外国人観光客の入込動向

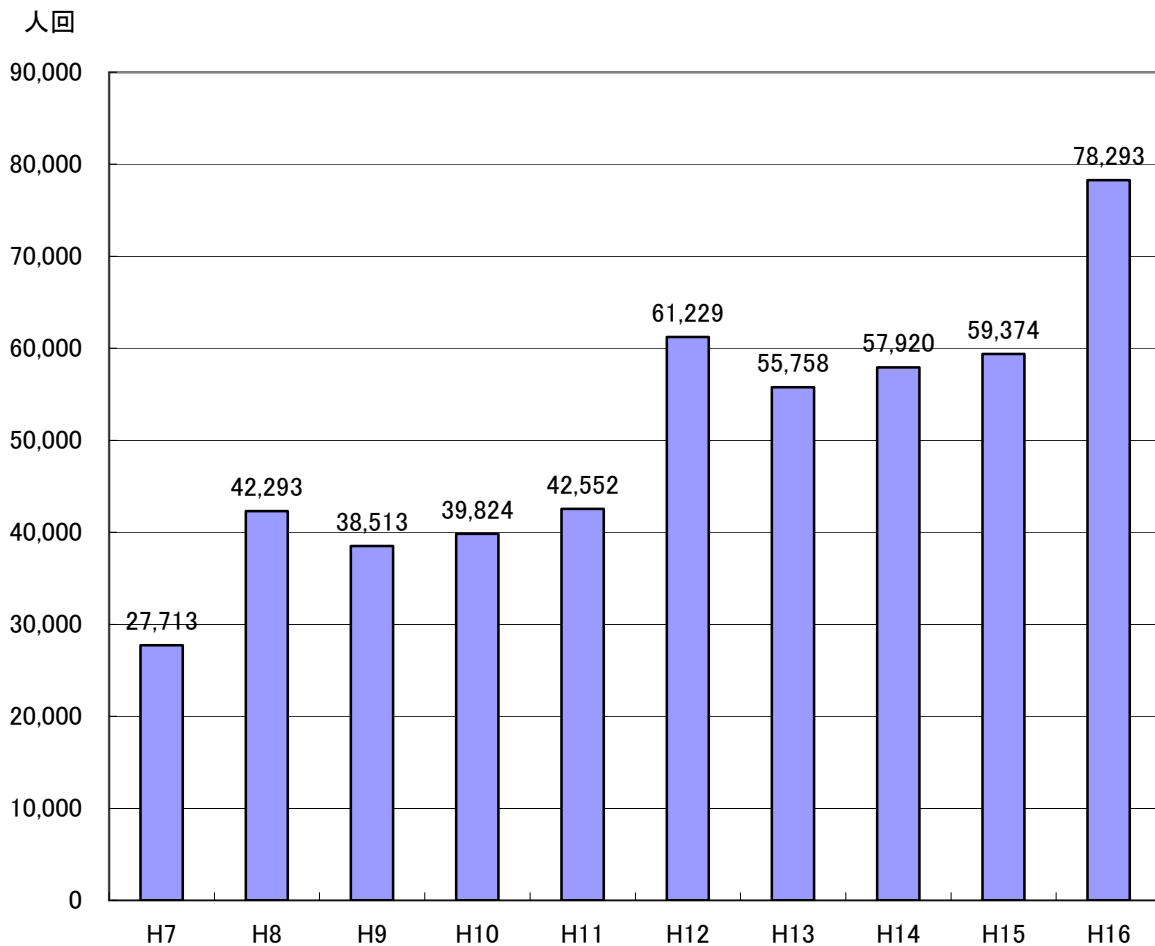
#### 1 入込みの推移

平成16年の外国人観光客の入込数は、対前年比31.9%増加し、78,293人回となっている。

昭和63年以降の推移をみると、平成5年は世界アルペンスキー選手権盛岡・雫石大会の開催により大幅に伸びたが、平成6、7年と減少し、平成8年から11年までは台湾からの観光客の増加等により約4万人回程度で推移した。平成12年には61,229人回となったが、平成13年には、アメリカでのテロ事件の影響により減少し、平成15年は前半のSARSの影響による落ち込みはあったものの後半は中国や韓国などのアジア地域を中心に入込みが上昇した。

平成16年には、台湾からのチャーター便が40回となり、前年(20回)から倍増したことなどにより、前年に引続きアジア地域からの入込数が大幅に増加した。(第3-1図)

第3-1図 外国人観光客入込数の推移

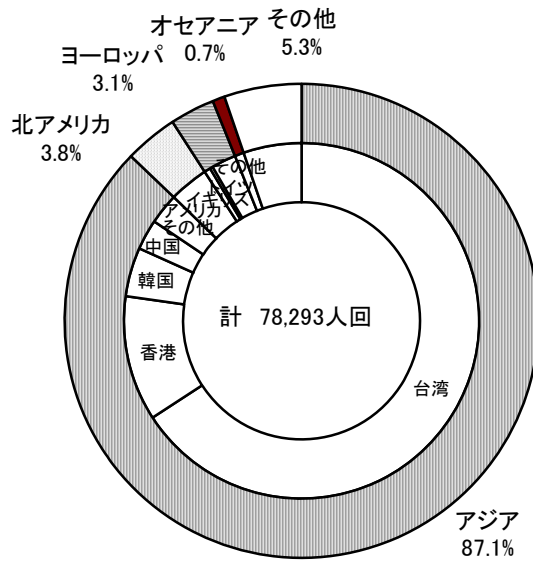


## 2 入込みの現状

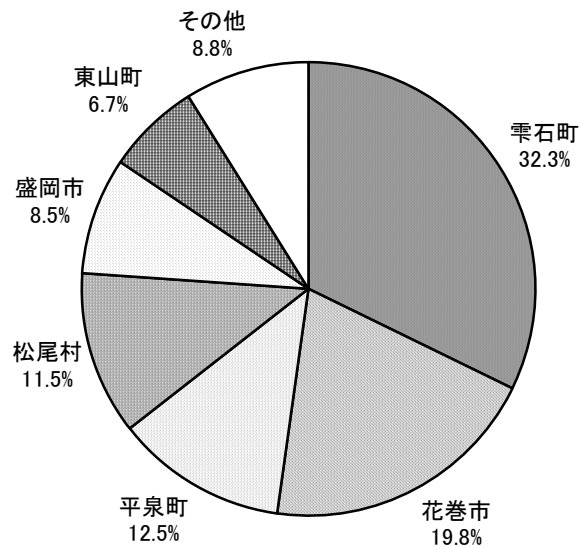
外国人観光客の発地別割合をみると、平成16年においてはアジアからの入込みが、約87%を占めており、中でも約66%は台湾からの観光客である。次いで、北アメリカ3.8%、ヨーロッパ3.1%となっている。(第3-2図)

また、市町村別では、雫石町が34.7%を占め、次いで花巻市21.3%、平泉町13.4%、松尾村12.3%となっている。(第3-3図)

第3-2図 外国人観光客地域別来訪割合



第3-3図 市町村外国人観光客の入込状況



## 第4 スキー客の入込動向

### 1 平成17年シーズンのスキー客入込状況

平成16年12月から平成17年5月までの県内スキー場への入込数は、1,420,503人回であり、前シーズンと比べ、5.0%の減少となった。

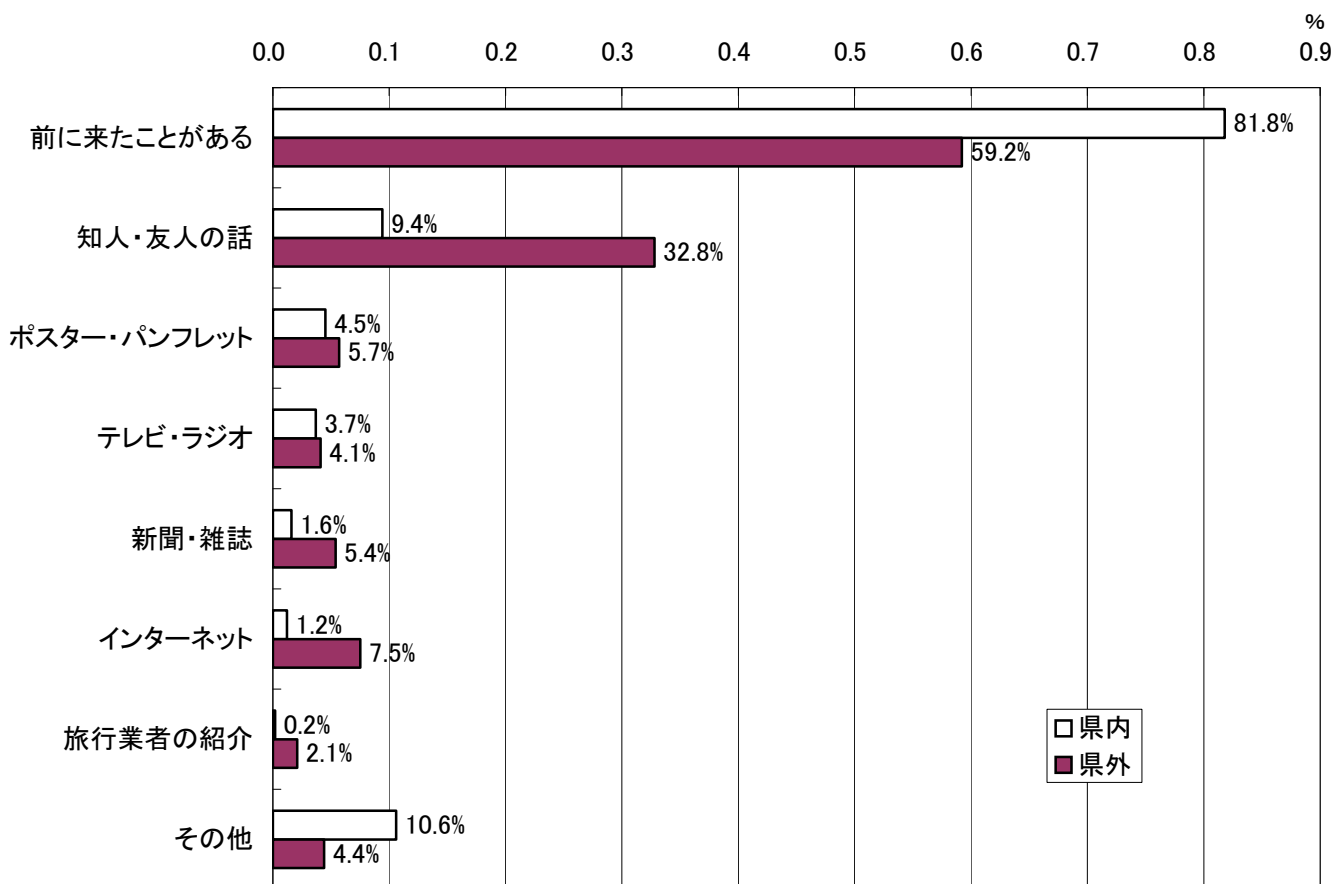
岩手高原のスキー場が営業を再開するなど、明るい材料も見られたが、シーズン当初の雪不足に加え、若年層等のスキー人口の減少などの影響により、全県的なスキー場の調査を開始した昭和60年から平成4年のピークを境に13年連続して前年を下回り過去最低の入込みとなった。

### 2 スキー客の来訪の動機

スキー客の来訪の動機をみると、県内客・県外客ともに「前に来たことがある」との回答が多く、スキー客の再訪割合が高いことを示している。また、県外客は「知人・友人の話から」や「インターネットを見て」の回答が多く、知名度やインターネットでの情報収集が来訪の動機となっている。

(第4-1図)

第4-1図 スキー客来訪の動機(N=898 複数回答可)



スキー客動態調査結果 (平成17年2月実施)

### 3 スキー客の観光消費額

平成 17 年 2 月に実施した、県内の主なスキー場におけるスキー客動態調査において、スキー客が県内で消費する 1 人 1 日当たりの観光消費額の状況は、次のとおりとなっている。(第 4-1 表、第 4-2 表)

第 4-1 表 発地別スキー客の 1 人 1 日当たり観光消費額

(単位：円)

	宿泊費及び 宿泊に伴う 飲食代	その他の 飲食費	お土産代	リフト代 その他	計
県内客	891	823	127	2,461	4,302
県外客	4,878	1,534	810	1,851	9,073
平均	3,432	1,276	562	2,072	7,342

注：スキー客動態調査（平成 17 年 2 月実施において回答があった消費金額の総計を回答者の延べ県内滞在日数で除したものの。

第 4-2 表 スキー場別スキー客の1人1日当たり観光消費額

(単位:円)

スキー場		宿泊費及び 宿泊に伴う飲 食費	その他 飲食費	土産代	リフト代 その他	計
リゾート	日帰客	0	585	915	4,744	6,244
	宿泊客	6,170	1,250	386	2,080	9,886
	平均	2,636	869	689	3,606	7,800
網張温泉	日帰客	0	547	116	2,489	3,152
	宿泊客	3,069	1,222	375	986	5,652
	平均	1,014	770	202	1,993	3,979
雫石	日帰客	0	923	71	2,508	3,502
	宿泊客	8,094	1,888	1,141	1,389	12,512
	平均	5,159	1,538	753	1,794	9,244
安比高原	日帰客	0	1,101	414	3,169	4,684
	宿泊客	5,554	1,745	802	1,608	9,709
	平均	4,510	1,624	729	1,901	8,764
夏油高原	日帰客	0	656	251	3,224	4,131
	宿泊客	3,615	866	169	1,216	5,866
	平均	1,682	754	213	2,289	4,938
奥中山高原	日帰客	0	833	88	1,563	2,484
	宿泊客	0	0	0	0	0
	平均	0	833	88	1,563	2,484

注：スキー客動態調査（平成 17 年 2 月実施）において回答があった消費金額の総計を回答者の延べ県内滞在日数で除したものの。

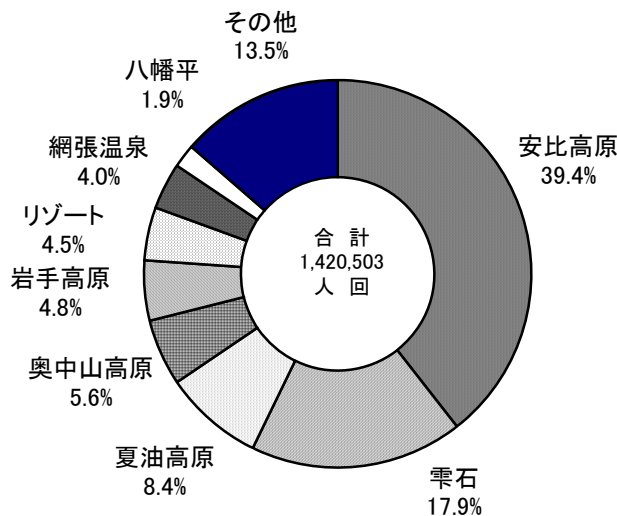
#### 4 各スキー場の入込みの状況

##### (1) 入込みの状況

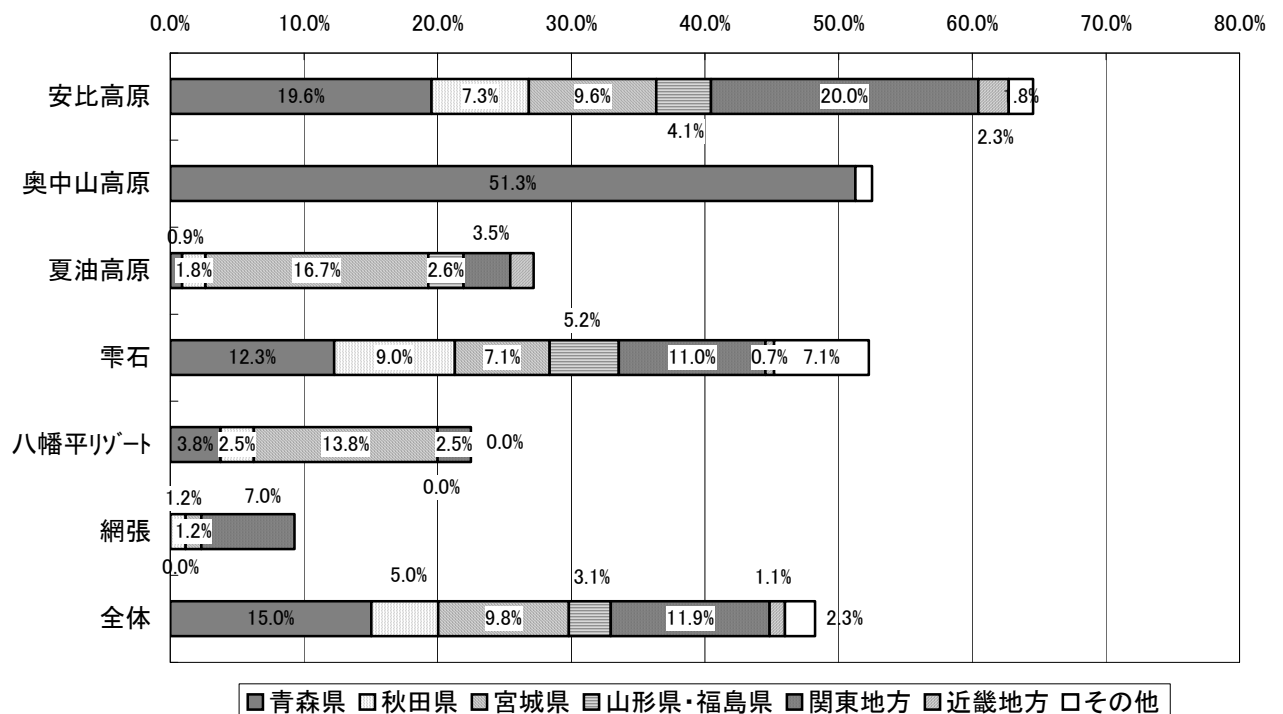
県内スキー場への入込みの状況の割合をみると、安比高原、雫石、夏油高原、奥中山高原、岩手高原、リゾート、網張温泉及び八幡平の8スキー場で全体の86.5%と、前年に比べ比率は落ちているものの、冬季の観光客の入込みは、大規模スキー場に負うところが大きい。(第4-2図)

特に、安比高原と雫石の2大スキー場は、施設規模も大きく、入込数で全体の57.3%を占めているほか、知名度も高いことから県外客が多く、東北地方をはじめ、首都圏からの入込みもかなりのウェイトを占めている。(第4-3図)

第4-2図 スキー場への入込割合



第4-3図 各スキー場の県外客の入込状況



スキー動態調査結果 (平成17年2月実施)

## (2) 入込数の推移

スキー客の入込数は、平成5年シーズンをピークとして、以後、13年連続して前年を下回っている。各スキー場における入込数の推移をみると、八幡平スキー場は、平成2年に約13万人回あった入込数が、平成3年から平成12年まで7万～10万人回で推移した後、平成13年以降は減少を続け、平成17年には3万人を割り込んでいる。

リゾートスキー場は、平成4、5年に30万人回台であった入込数が、平成6年から平成9年までは20万人回台で推移し、平成10年に約18万人回となって以降、減少が続き、平成17年は7万人を割り込んでいる。

網張温泉スキー場は、平成2年から平成13年まで14～19万人回で推移してきたが、その後減少し、特に、平成16年には約7万人回と大幅に入込数が減少し、平成17年度には6万人回を割り込んでいる。

雫石スキー場は、ワールドカップ大会、アルペンスキー世界選手権と連続で国際競技会が開催され、知名度が高まったことから、平成4、5年には70万人回台の入込みがあったが、以後、平成8年まで50万人回台で推移した後、減少を続け、平成17年には約25万人回台にまで減少している。

安比高原スキー場は、国内屈指のゲレンデとして、営業開始以後、平成4年の約150万人回まで順調に入込数を伸ばしていたが、平成5年以降は前年を下回る実績が続き、平成17年は約56万人回と、ピーク時の約3分の1にまで減少している。

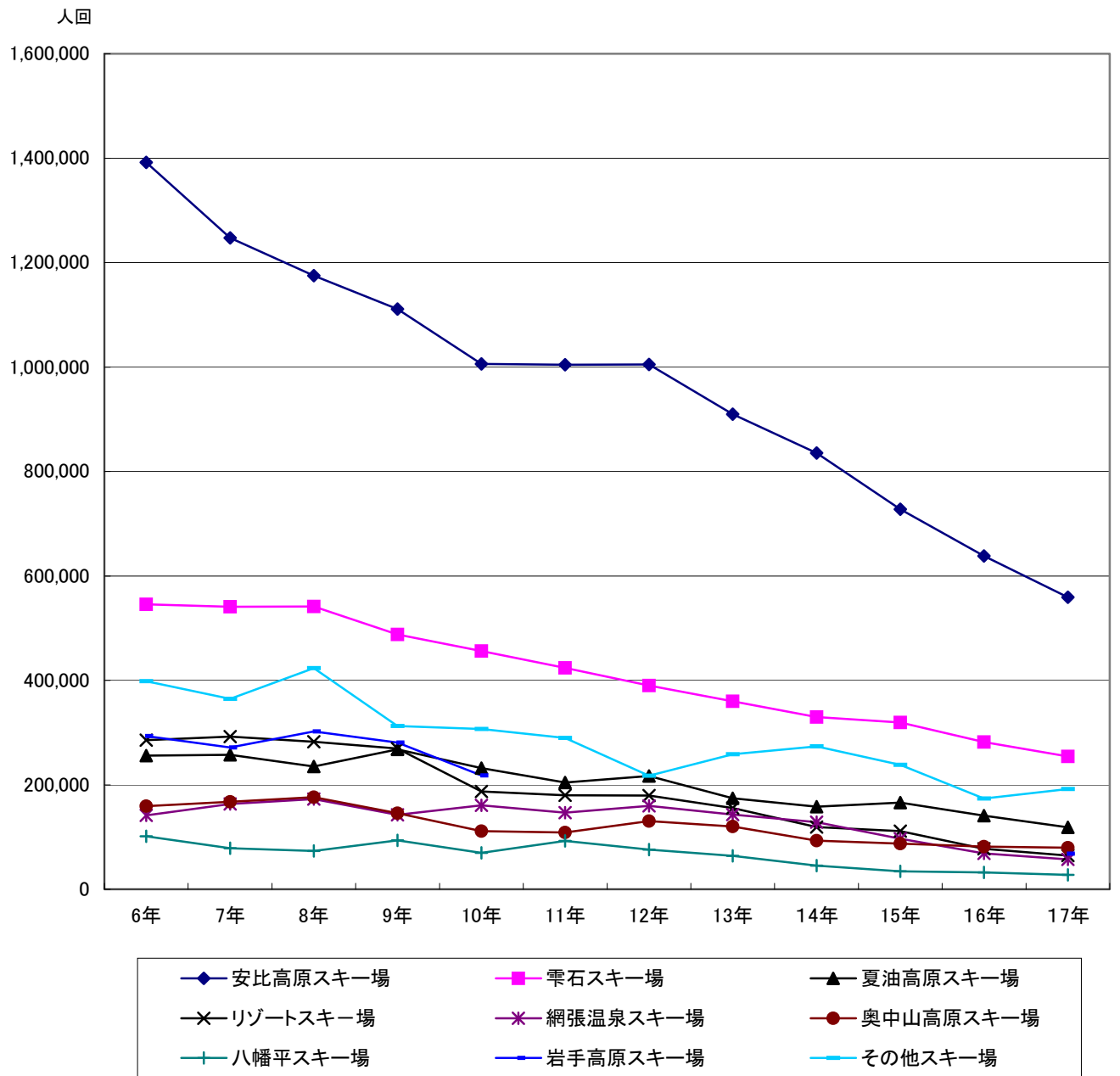
岩手高原は、平成11年以降休止していた営業を再開し、約7万人回の入込みがあったことから、近年におけるスキー客入込数の減少幅縮小に一定の効果が認められたが、休止の前年である平成10年の約22万人回に比べると、大きく減少している。

奥中山高原スキー場は、主に青森県からのスキー客が多く訪れ、平成8年には約18万人回の入込みがあったが、平成14年以降は10万人回を割り込んでいる。

夏油高原スキー場は、県南唯一の大規模スキー場として平成6年シーズンにオープンし、宮城県からのスキー客が多く訪れるなど、平成12年まで20万人回台で推移してきたが、平成13年以降は10万人回台で推移している。

(第4-4図)

第4-4図 主要スキー場の入込数の推移



## 第5 有料宿泊施設の動向

### 1 概況

平成17年1月1日現在の県内有料宿泊施設は、1,459軒で、前年に比べ56軒減少している。また、収容人員は79,476人で、前年に比べ2,588人減少している。

施設別にみると、ホテル151軒、旅館991軒、簡易宿所317軒で、前年に比べホテルが同数である一方、簡易宿所が15軒、旅館が41軒それぞれ減少している。

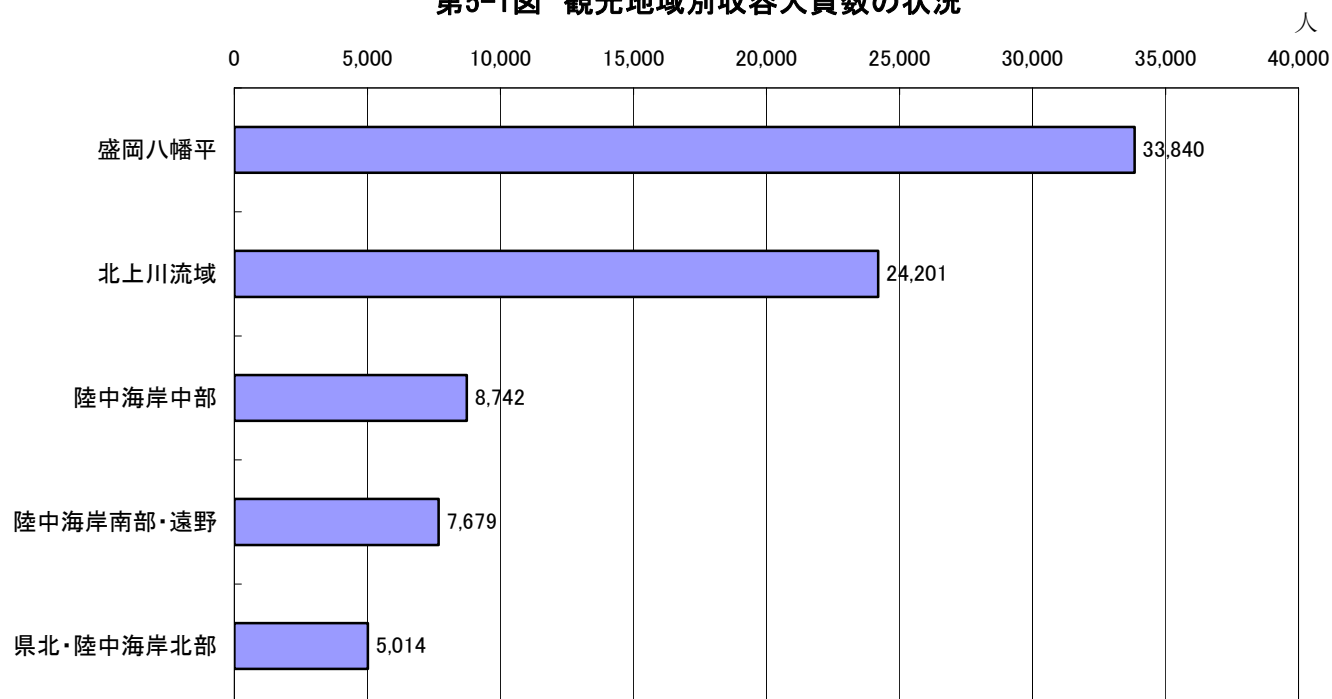
収容人員では、ホテル17,488人、旅館52,137人、簡易宿所9,851人で、前年に比べホテルが26人、簡易宿所が712人、旅館が1,850人それぞれ減少している。

### 2 地域別収容人員の状況

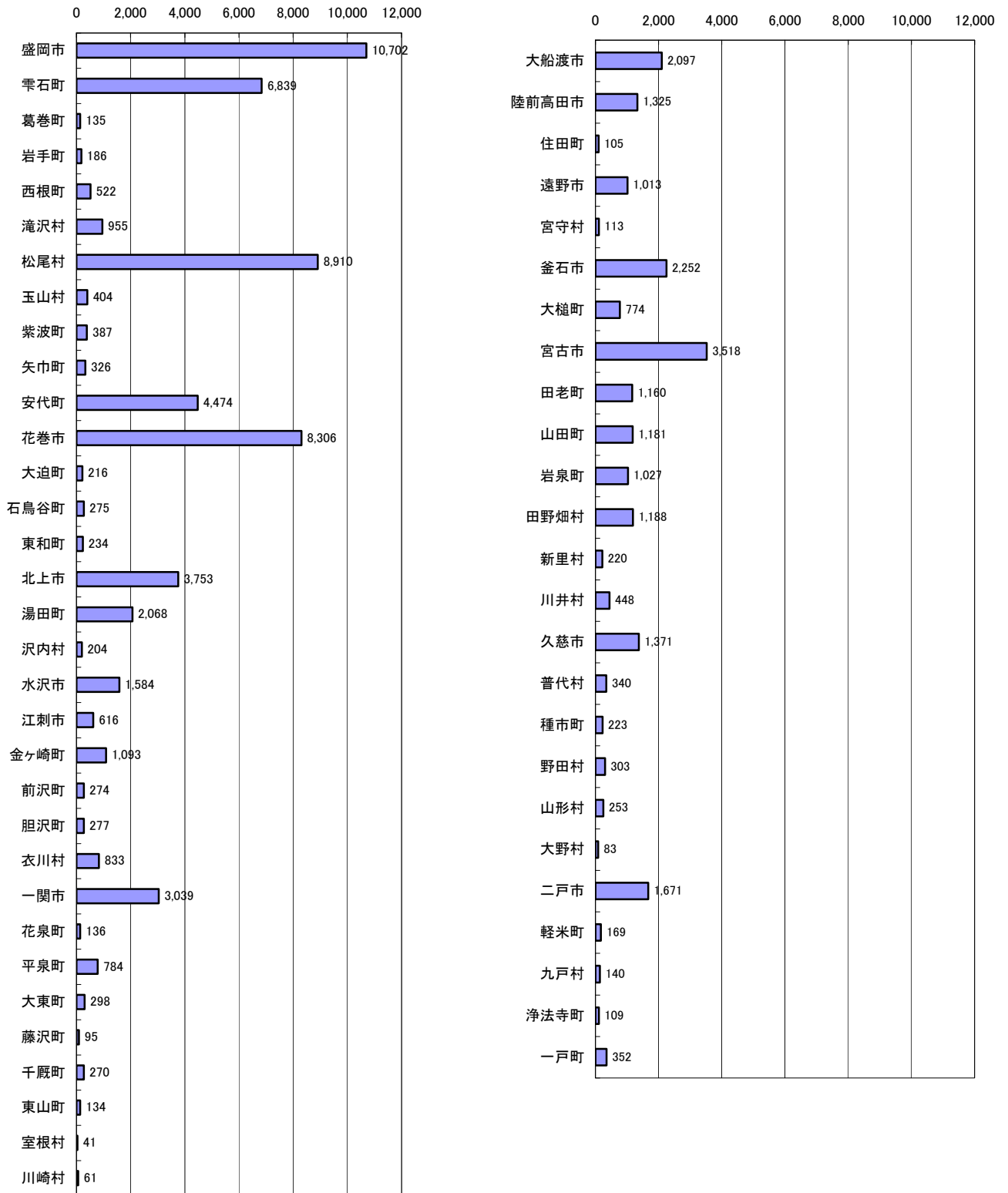
観光地域別の収容人員数をみると、盛岡・八幡平地域が最も多く33,840人、次いで北上川流域地域の24,201人であり、内陸部での収容人員数が多くなっている。特に、盛岡・八幡平地域では、盛岡市をはじめ、雫石町、松尾村、安代町の4市町村の宿泊施設が量的に充実している。また、北上川流域地域では、花巻温泉郷を有する花巻市に宿泊施設が多数立地している。

(第5-1図、第5-2図)

第5-1図 観光地域別収容人員数の状況



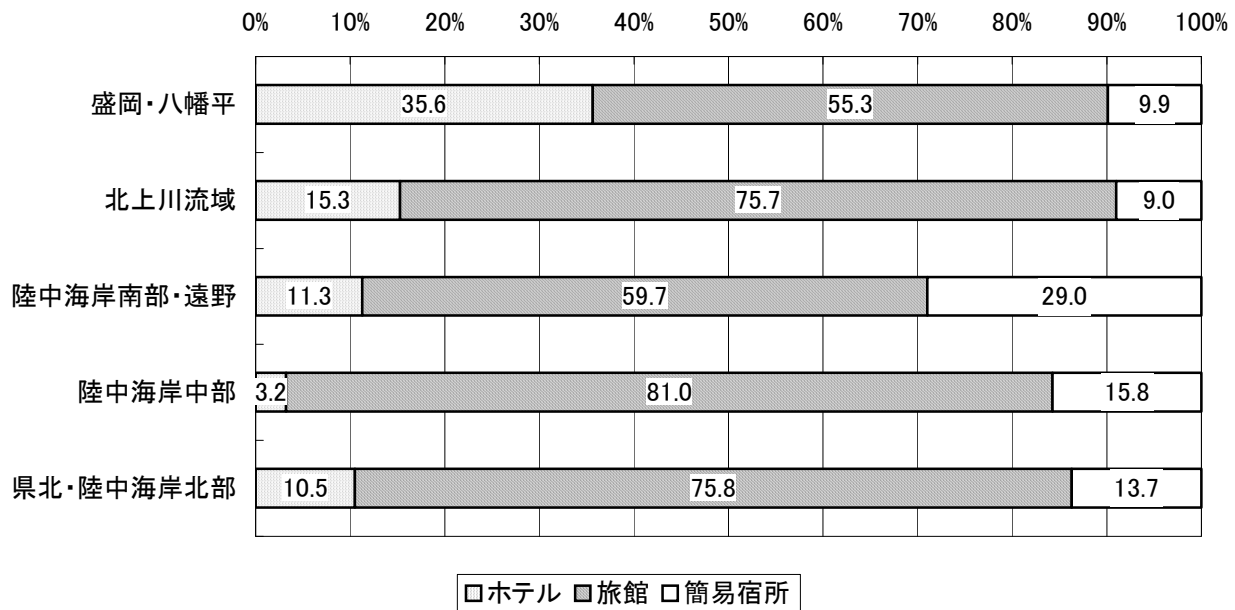
第 5-2 図 市町村別収容人員数の状況(単位:人)



また、施設別では、ホテルは盛岡・八幡平地域で、民宿など簡易宿所は陸中海岸南部・遠野で構成割合が高くなっている。(第5-3図)

また、部屋タイプ別では、洋室は盛岡・八幡平地域及び県北・陸中海岸北部での割合が高くなっている。(第5-4図)

第5-3図 観光地域別施設別収容人員数の割合



第5-4図 観光地域別部屋タイプ別収容人員の割合

